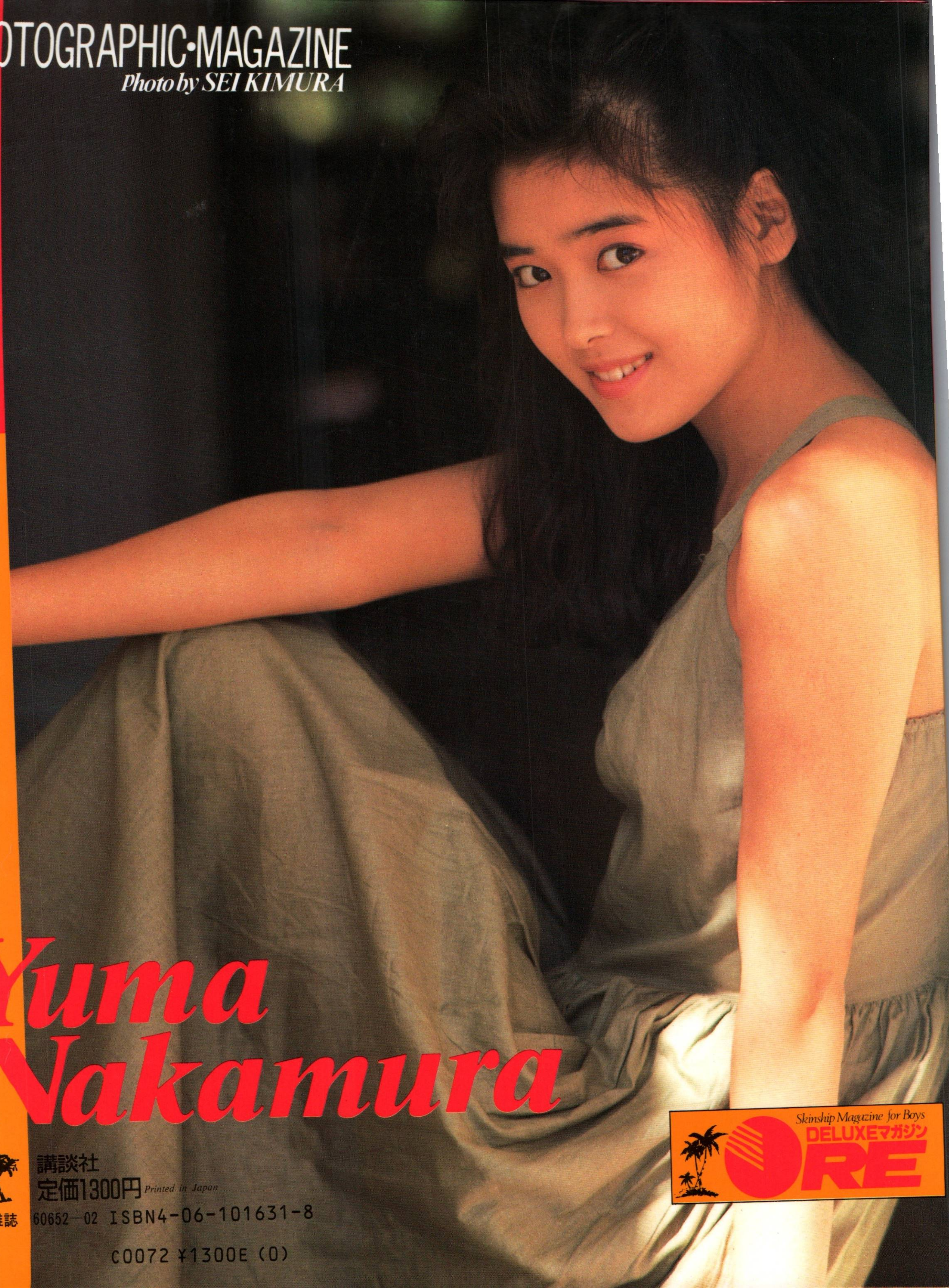
PHOTOGRAPHIC·MAGAZINE

Photo by SEI KIMURA



Yuma Nakamura

Skinship Magazine for Boys
DELUXEマガジン
ORE

講談社
定価1300円 Printed in Japan
雑誌 60652—02 ISBN4-06-101631-8
C0072 ¥1300E (0)

別冊ORE PHOTOGRAPHIC・MAGAZINE

SIDE.1 SEXYインナー編
こんなに大胆、衝撃、セクシー由真は初めて！
SIDE.2 OREグラフィティ
「おっきな"好き"届けたいナ…」「ひとりごと」
SIDE.3 YUMA WORLD
由真のことならなんでもわかる！
SIDE.4 HEART OF DIARY
ゆれうごく、18歳のハート
SIDE.5 恋写館
SEXY YUMA IN MONOCHROME IMAGES
SIDE.6 カリフォルニア紀行編
快感、YUMA Eighteen

中村由真

YUMA Eighteen

刺激…大胆…快感



Skinship Magazine for Boys
DELUXEマガジン
ORE

撮影／木村 晴

由真にとって初めての本格的な写真集、いかがでしたか？　これからも、いろんなことがあると思うけど、いつも熱いハートで応援してくださいね。



Shooting Sexy

Yuma Nakamura

Photo by SEI KIMURA

Design by PENCIL STUDIO

●「涙をさそうような女のコ」を演じたい！

コンサートの衣装のことなんかを考えてると、アッという間に時間がたっちゃうんですよね。いろんな雑誌を見て、「こんな服がいいな」とか「この色ステキだな」とか、気にいったページを切りとるんです。それを見ながらスタイリストのお姉さんと「あの曲はこういう感じの衣装で……」というふうに相談するの。これは、お仕事っていうより、ほとんど〝楽しみ〟の時間ですね。

今、特別に歌のレッスンはしてないんだけど、車の中でテープをかけて、いつも歌ってます。これが由真の発声練習かな。いつも声を出してないと、だんだん出なくなっちゃうんですよね。テープは、ほとんど自分の曲。今度のコンサートは、自分の曲中心でやる予定なの。LP4枚分の持ち歌があるから、好きなのを選べるんですよね。嬉しいナ。それから、コンサートではコーラスの人たちと歌って踊る曲もあるから、ダンスのレッスンもやらなきゃね。う〜ん、燃えてくるなあ。

あと、やってみたいのは、ドラマで「涙をさそうような女のコ」の役。何度もいってるけど、これはやってみたい。病気で死んじゃうとか、そんな役。私はホントに真剣にいってるのに、まわりの人たちは笑うんですよね。「ああゆうのって、色白でか弱い女のコがやるんだよ」とかいって。失礼しちゃうナ。由真だって、か弱い女のコのうちの1人、のつもりなんですよ(笑)。








●本場はスピード感と迫力が違う!?

今度のロケでいちばんの収穫?は、憧れの本場のディズニーランドに行ったこと！ 中にいたのは3時間ぐらいだったけど、楽しかったな。由真の見た感じじゃ、広さは日本のディズニーランドと同じぐらいで、全体の造りもほとんど同じ。シンデレラ城なんかは、かえって日本のよりちゃちな感じもするんだけど……でも、やっぱり本場のは雰囲気が違う。スゴイ！ なんといっても、歩いてる人がゼンブ外人(笑)。な〜んて、ついついノッてしまう由真だけど、乗り物のスピード感とか迫力が、ぜんぜん違うって感じたの。外国にいるっていう解放感のせいなのかな、それとも、ホントにスピードとかが違うのかな……。園内の係の人に聞いてみればよかった。こういうとき、「英語がペラペラとしゃべれたらなあ」って、つくづく思うんですよね。

とゆー感じで、ディズニーランドで大ハシャギ大会して、ホテルに夜7時ごろ帰ってきたらもうクタクタで、バタンキューと寝ちゃったの。それで、目が覚めたのが夜中の12時。今度は頭がさえて、もう眠れなくなって、東京の友達に国際電話しちゃった。「どこからかけてるの」なんて、みんなビックリしたみたい(笑)。





ステキなサンシャインをひとりで感じるなんて、もったいない。由真、決めたんだ。今度はアナタといっしょに!

●スーパーのレジで「お世話になりました」

夢の話の続きなんだけど、由真、「いいな」と思う人が現れても、１年間お付き合いしてからじゃないと、絶対に結婚しないんだ。初対面の人でも、だいたい「この人はどういう人か」って、だいたいわかるんです。昔からそういうのだけは自信があるの。でも、結婚するとなれば、やっぱり最低１年以上は観察したい。１年間見てれば、その人のことがゼ～ンブわかると思う。ハートの中まで見抜いちゃうんだ、私、絶対に(笑)。ときどきスタッフの人とかに「感性鋭いし、観察眼もいいから、何か本を書いたらどう」とかいわれるの。でも、そこまではちょっとねえ……。無理ですよね(笑)。

それで、結婚して子供が生まれて、ある程度大きくなって保育園とか行くようになったら、また何かやってみたいな。そのころは当然芸能界は引退してるから、そういう仕事じゃなくて、スーパーのレジ係とかをやってみたいの。レジを打ってて、やっぱり大人になってる昔のファンの人に「あなた、中村由真さんじゃありません？」なんていわれることがあったら「どうも、あのころはお世話になりました」っていって、昔のことをなつかしくおしゃべりするの。そういうのって、いいと思いませんか？

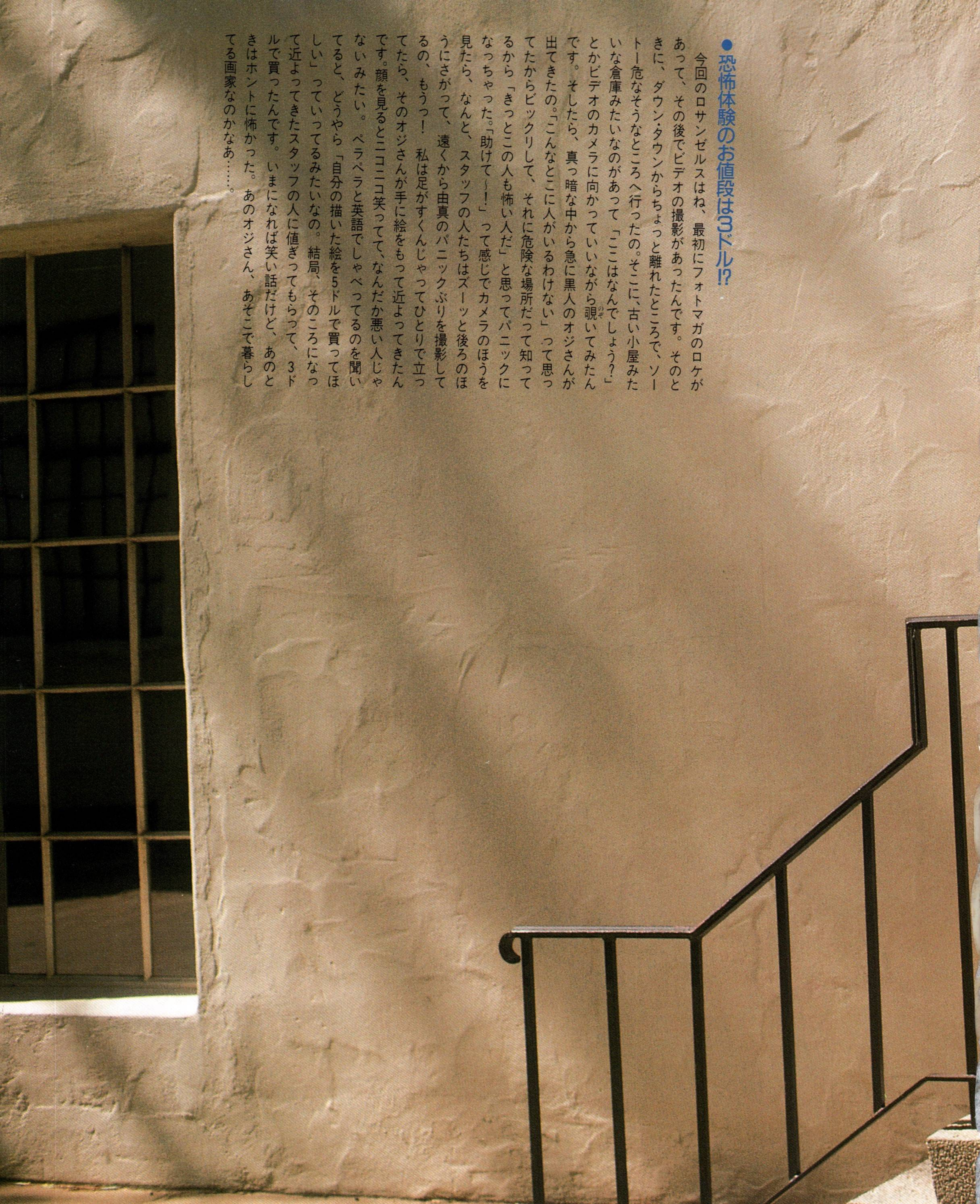






Yuma Nakamura

●本名　同じ
●出身地　東京都
●生年月日　昭和45年２月16日
●身長161、体重44、Ｂ78・Ｗ56・Ｈ83
●血液型　Ｂ型
●星座　みずがめ座
●ファンレターのあて先
〒150 東京都渋谷区円山町28の４　大場ビルＢ館（株）ＩＶＳ音楽出版社　中村由真ファンクラブ



●恐怖体験のお値段は3ドル!?

今回のロサンゼルスはね、最初にフォトマガのロケがあって、その後でビデオの撮影があったんです。そのときに、ダウン・タウンからちょっと離れたところで、ソートー危なそうなところへ行ったの。そこに、古い小屋みたいな倉庫みたいなのがあって「ここはなんでしょう?」とかビデオのカメラに向かっていいながら覗いてみたんです。そしたら、真っ暗な中から急に黒人のオジさんが出てきたの。「こんなとこに人がいるわけない」って思ってたからビックリして、それに危険な場所だって知ってるから「きっとこの人も怖い人だ」と思ってパニックになっちゃった。「助けて〜!」って感じでカメラのほうを見たら、なんと、スタッフの人たちはズーッと後ろのほうにさがって、遠くから由真のパニックぶりを撮影してるの、もうっ! 私は足がすくんじゃってひとりで立ってたら、そのオジさんが手に絵をもって近よってきたんです。顔を見るとニコニコ笑ってて、なんだか悪い人じゃないみたい。ペラペラと英語でしゃべってるのを聞いてると、どうやら「自分の描いた絵を5ドルで買ってほしい」っていってるみたいなの。結局、そのころになって近よってきたスタッフの人に値ぎってもらって、3ドルで買ったんです。いまになれば笑い話だけど、あのときはホントに怖かった。あのオジさん、あそこで暮らしてる画家なのかなあ……。









●「お母さん」より「ママ」が好き?

由真のウチって、今、ちょっと混乱してるの。両親のことをね、私たちは昔っから「パパ」「ママ」って呼んでたんだ。でも、最近妹が「お父さん」「お母さん」て呼ぶようになったんです。そしたらおまけに、まだちっちゃいくせに弟まで「お父さん」「お母さん」ていうようになって……。だから今、ウチの中では「パパ」「お母さん」「ママ」「お父さん」とゴチャゴチャに言葉が飛びかってて、まるで両親が4人いるみたい。それはいいんだけど、由真、考えちゃうな……だって、お姉さんのくせに「パパ」「ママ」なんていってると、なんだか私だけいつまでも甘えんぼうみたいなんだもん。



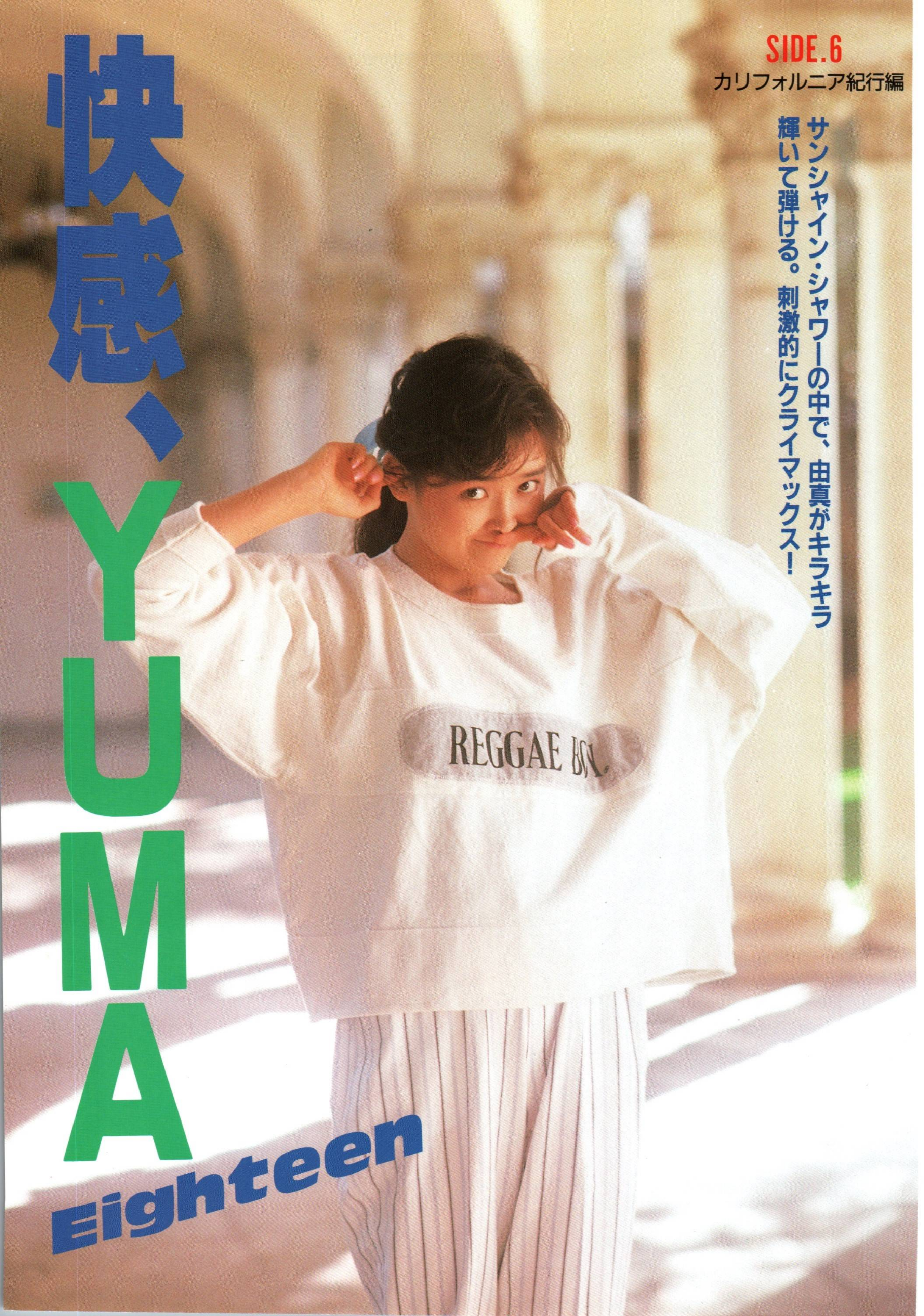


ステージで何千人もの人に見つめられるのって、ドキドキしちゃう。でも、アナタの熱い視線が、何よりも好きっ！





3人から1人になって、「寂しくない?」って聞かれるけど、そんなことない。アナタがいつも応援してくれるから



SIDE.6

カリフォルニア紀行編

快感、YUMA Eighteen

サンシャイン・シャワーの中で、由真がキラキラ輝いて弾ける。刺激的にクライマックス！

遠くの知らない街へとレールが続くパサデナ駅。「フラリと列車に乗っちゃおうかナ……」



Sunshine Journey



おどけた立て看板が、由真を呼びとめた。「ウッジュー・ライク・ティー・ウィズ・ミー？」



まだ誰も起きてこない、朝一番の住宅街。とびきりのさわやかウインドをひとりじめ。



ハートまで真っ赤に染まる、サンタ・バーバラの夕暮れ。せつなさを笑顔で隠して……。



まぶしいほどの光でいっぱいのマリナ・デル・レイ。「彼といっしょにヨットもいいナ……」



「今度はステキな人ときてみたい」……由真、18歳のスウィート・スウィート・ドリーム。

由真、カリフォルニアを往く。

Sunshine Journey



昼下がりのヨットハーバーでリンゴのお菓子をパクッ！ おいしい午後のはじまりです。



メルローズはカリフォルニア・ファッションが生まれる街。オシャレな由真がよく似合う。

〃いつも何かを求めながら、一生懸命なあなたが
大好きなの……〃。そんな私の言葉、目にはみえ
ない海風に流されてしまったけれど……
この日の想い出だけは、決して忘れないわ……
モノクロームのフィルムのなかに閉じこめて……



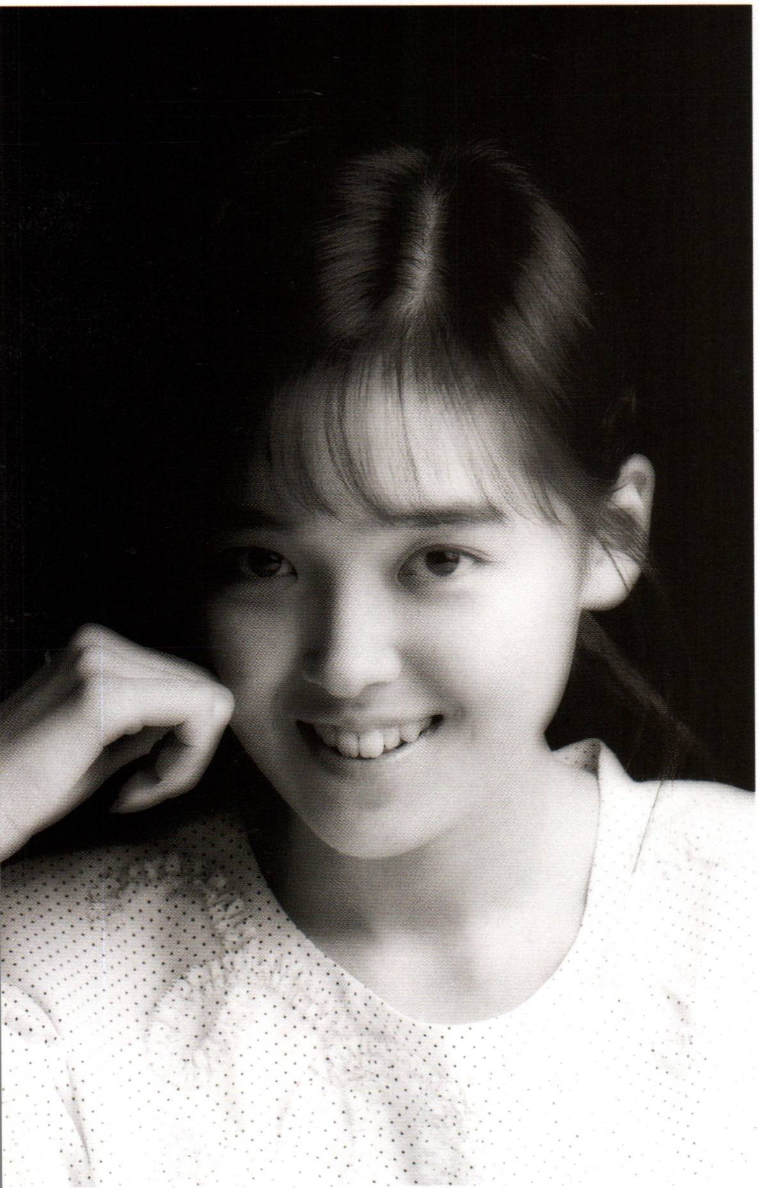


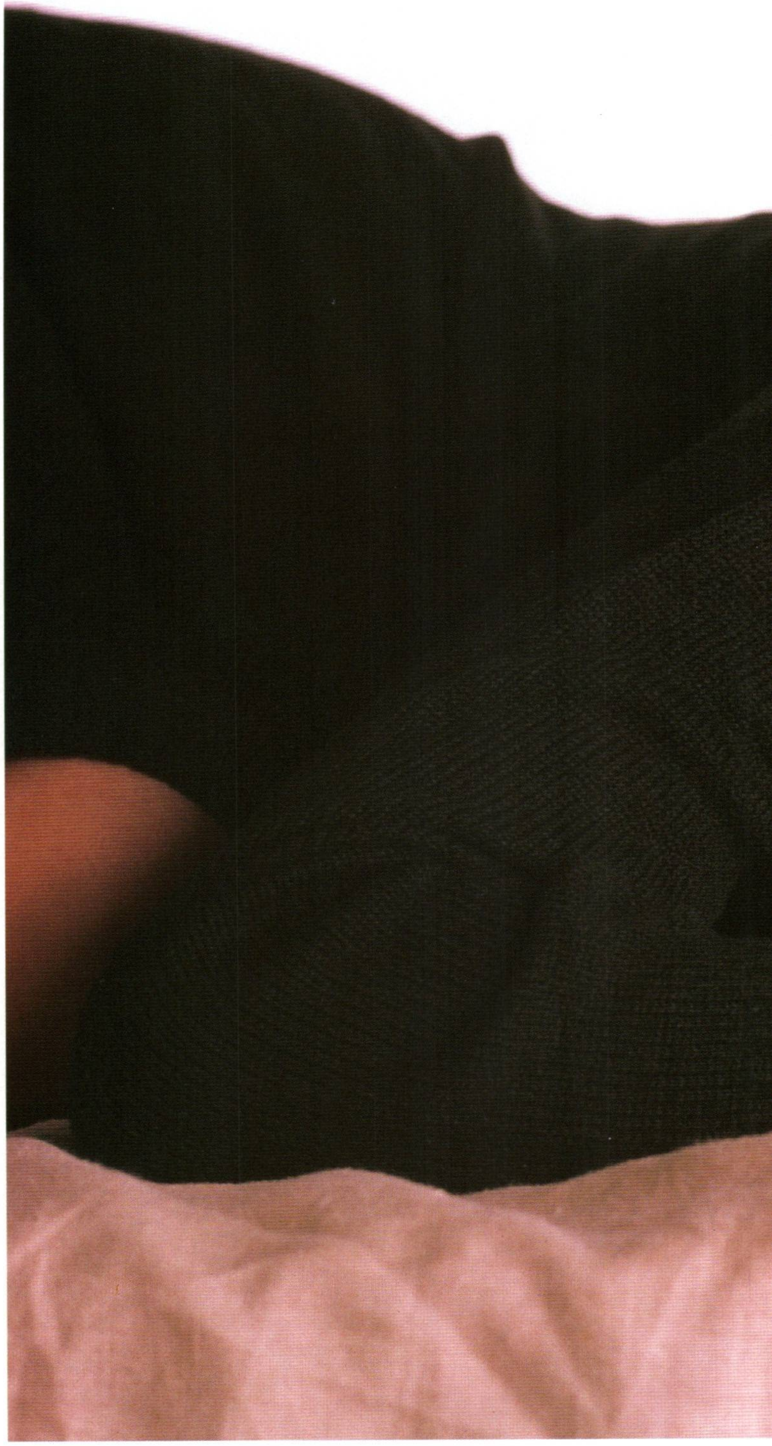
SEXY YUMA IN MONOCHROME IMAGES

すっかり日の沈んだ海岸を離れ、海辺のテラスでお茶を飲んだわ。淡いシェードランプに照らされたあなたの横顔だけ、ずっとみつめ続けていたの……時おり通り過ぎる潮風にそっと髪を揺らして、いつまでも、この瞬間が続きますようにって祈りながら……



誘いかけてきたのはあなたのくせに、
〝これから、どこへ行こうか……〟なん
ていわないで……
ヒールのくつをぬぎすてて、足もとの波
と遊び、遠い海岸線に沈む夕日を黙って
みつめて……こんなふうに、あなたとい
っしょの時間を過ごせるだけで、私の胸
はいっぱいなのに……
あなたが波打ちぎわでみつけた、薄桃色
のきれいな貝がら……
ずっと、にぎりしめていたのよ
だって、あなたからのはじめてのプレゼ
ントだもの……私には聞こえるの……
あのときの夕日のうたが……今でも……







SEXY YUMA
IN
MONOCHROME
IMAGES

恋写館

SIDE.5

SEXY YUMA IN MONOCHROME IMAGES

大きなスクリーンいっぱいに、出会ったばかりのあなたと私の姿が映し出されているわ。スローモーションで、あなたが誘う、夕暮れの海へ……これからはじまるふたりっきりのストーリー。うつむいた私、おびえさせないで……音楽も、街の音も、波音も、何も聞こえない、モノクロームのフィルムのなか……



どんなに広いグラウンドでも、双眼鏡なんてなくても、私にはきっとあなたがわかるの……



HEART OF DIARY



Yuma in Someday

今日、時々行く雑貨屋さんで、新しい色のマニキュアを買ったの。いつもより、ちょっとだけ大人っぽいパール入りのピンク。

夜、ゆっくりとシャワーを浴びて、それからゆっくりとマニキュアを塗るのが私のいちばん好きな時間——。

明日は、あなたも出場するっていってたサッカーの試合。

このマニキュアを塗った指で、スタンドから手を振ったら、あなたは私に気がついてくれるかしら……でも、こんな私の気持ちには気づいてくれないんだろうナ……。

日記の中では、素直でいられるのに、あなたの前ではいつもジョークばかりいって、はしゃいでいるから……。

なんだか、せつない……です。



私らしい笑顔、いつまでも忘れずにいたいな。〃セーラー服〃は、もう卒業したけれど……

おもいっきり素直にあなたに甘えてみたいナ……毛糸だまみたいにちっちゃな仔犬になって。





葉桜の黄緑がとても鮮やかな午後の日差しの中、学校の近くの公園へちょっと寄り道――。

いくつも並べられた白いベンチに木もれ日がキラキラと、とてもキレイでした。

砂場で遊ぶ子どもを優しく見守るおかあさん、それから、手をつないで、何か話しながらゆっくり歩いてるふたり連れ……。

いつか、あなたとこんなふうに午後のひとときを過ごせたらいいナって思いながら、そんな風景をながめていました。

そのときはふたり、おそろいのトレーナーを着て、そして、茶色くて、ちっちゃくて、とっても元気のいい仔犬を連れていきたいナ。

そんな夢……いつか、かないますよネ……きっと……。

ふんわりと優しい風に吹かれて、ちょっとよそいき顔の私……あなたにも見せてあげたい……



SIDE.4

HEART OF DIARY



月曜日って大好きなの。

みんなは不思議そうな顔をするけど……だって、また、一週間、学校へ行けるでしょ。そうするとあなたに会えるもの……それに、みんなでワイワイしゃべったり、騒いだりしていると、なんか気分が落ちつくの。

日曜日の夜、ベッドの中で、来週一週間はどんな服を着ていこうかナなんて考えていると、なんだかワクワクしてきちゃう。

あなたは明日、何を着てくるかしら……とか、あなたの好きな色は……とか……そのうちに、だんだん目がサエてきちゃって、結局洋服ダンスを開けて、あーでもない、こーでもないって、寝不足ぎみで月曜日の朝をむかえることも多いんだけど……。

YUMA・NAKAMURA

CLOSE プライベート・グッズ& GOOODS!

大好きなスヌーピーグッズがいっぱい!

由真が毎日持ち歩いているグッズを見せちゃおっと。かわいいでしょ?

▶ハワイで買ったレイバンのサングラス。デザインが無難なところが気に入ってる。もちろんロサンゼルスにも同行した。



▼ハワイで財布といっしょに買ったレノマのセカンドバッグ。日本では売ってないデザインだとか。



▶ハワイで買ったレノマの財布。いつもは5000円から1万円くらい入っているとか。レノマはシンプルなので好き。





▲スヌーピーのハンカチは100枚以上持っているので、タンスに入りきらないのが悩みのタネなんだって。

▶1年近く移動用の車に乗っていたぬいぐるみ。少々くたびれた感じだが、由真は愛着をもっている。

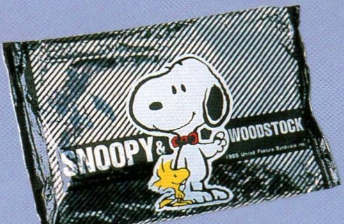




▶ファンにもらったブラシと手鏡。使いこんでいるので、ブラシのスヌーピーの絵がハゲかけている。



◀ファンのコにもらったドライヤーやホットカーラーなどヘアセットの道具を入れる袋。



▶ティッシュ。原宿のスヌーピーショップで買ったり、ファンにももらったりするので不自由しない。

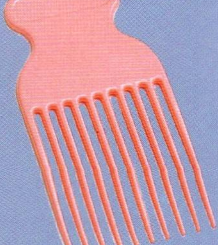


▶コンタクトレンズのケースと保存液、目薬は必ず持っている。スヌーピーのポーチに入れてある。





▼常備薬。バファリンとセキ止めの薬、バンドエイド。胃薬や正露丸も持っていないと不安になる。



▶ソバージュヘアにして使うようになったくし。友達からもらって愛用している。

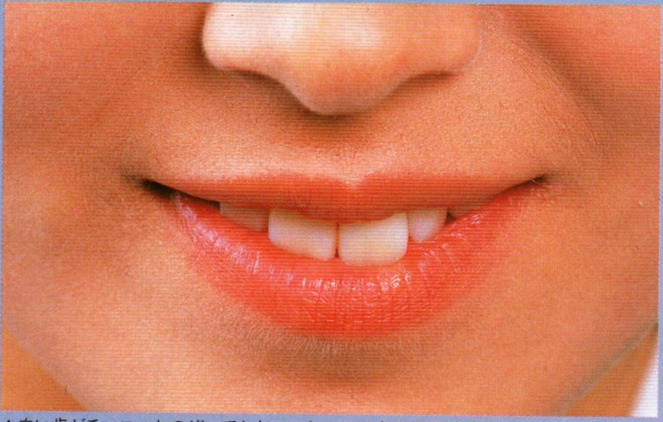
YUMA・NAKAMURA

・UP!

スィート・ボディー!!

こんなに近くで見られるのって、なんだか恥ずかしいなあ……。

由真の唇まであと3ミリのときめき大接近!



▲白い歯がチョコッとのぞいてかわいいね。口は小さめで、ピンクの口紅がいちばん似合う。思いっきり笑ったり、おしゃべりしたりで、いつも大忙しの口。



▲くるくると表情豊かな瞳。視力は0.1。テレビの仕事のときはコンタクトレンズ、学校ではメガネ、街中ではサングラスを愛用。ニラんでも笑ってもサマになる目だね。

BODY!

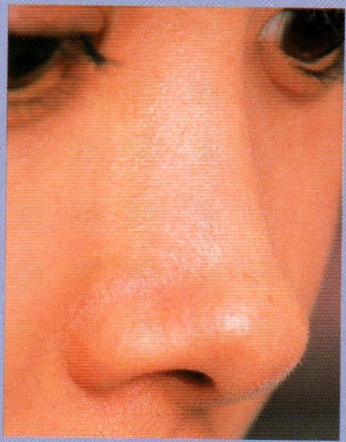


▶長く伸ばしているように見えてしまう爪。はえぎわから指先までが人一倍長いのでそう見えるだけなのだ、得だね。

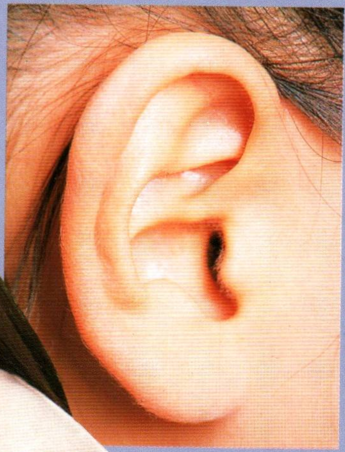


▶美容院でアクセサリーをつけてもらったり、マニキュアを塗ったりして、爪の先までオシャレを楽しんでいる。





◀ちっちゃな鼻は、なんといっても由真のチャームポイント。チョコンとしてて、形がよくて、とても上品に見える。



◀全体に丸みを帯びた耳。耳たぶがふっくらとしているのは、裕福になれる相だけど、当たるといいね。



▲トチッてしまった時など、思わずこんなポーズが出た。



▲関クンも、この日ばかりは由真にからかわれっぱなし。



▲打ち合わせはほんの数分ですませ、早くも本番1分前。

63年2月
2時間半のスペシャルDJで大はしゃぎしたゾ!!

この日は、ちょうど文化放送のスペシャルウイークということで、『求む、ブリブリ人』が2時間半わくになった、特別番組が行われていたのだ。由真に結花、そして関クン、太田クンのいつものメンバーに加え、男闘呼組の前田クンなどもゲストに来て、関クンのいる芝浦スタジオと太田クンのいる文化放送本社スタジオを結んだ、二元中継で行われたのだ。だが、夜10時の生本番の前になっても由真は現れず、本番5分前になって、やっと、ハアハア息をはずませながらやってきたのだった。「遅くなってスイマセン！」とスタッフに挨拶をすますと、由真はとるものもとりあえずスタジオ・マイクの前へ。打ち合わせなどほとんどなく、ぶっつけ本番のおしゃべりとなったのだ。でもそこには、長年つちかった結花との名コンビがものをいって、本番が始まったとたん、番組は盛り上がった。この日は、たくさんのゲストとおしゃべりしたり、前田クンをからかったりして、羽を伸ばしていた由真でした。

63年2月
最後の風間三姉妹。グッバイ、リリアンの由真!

とうとう。ホントにとうとうこの日が来てしまった。「スケバン刑事全国ファイナルコンサート」。このコンサートで、スケバンとともセーラー服とも、お別れ。風間三姉妹としての活動も、おしまいだ。まずは、ステージ上の大きなスクリーンに、映画『スケバン刑事の逆襲』のハイライトシーンが写し出され、3人がひとりずつ、セーラー服で登場。大ヒットした『Remember』を歌う。その後の挨拶の時、由真は「つらかったこともたくさんありました」と、シンミリ。会場のみんなは、由真が泣きだしちゃうんじゃないかと心配してた。でも、感情をこめながら、最後までちゃんと話し終えたよ。そして、それから後は、涙も見せずに3人とも大ハリキリ。ゲームコーナーもあり、ファンのみんなと一緒に大笑いでエンジョイしていた。〝リリアンの由真〟は伝説の人になってしまったけれど、僕らの由真はこれからが勝負。ずっとずっと応援し続けるからね！



▲はしゃいでいたけど、本当は泣きたかったんだろうね……。



▲3人おそろいのセーラー服も、これが最後。『Remember』を歌うカオも、さびしそう……。



▲ビンゴゲームの進行役をして、「次はBの18でーす」と元気いい。

63年2月
バースデーパーティーで18歳のハッピースマイル

'88年2月16日。由真の18回めのバースデーだ。この日、由真の誕生日を祝おうと、たくさんの人が六本木のパーティー会場に集まってくれた。淡いブラウンのファッションで大人っぽくキメた由真。この日発売になった18歳のメモリアルアルバム『EIGHTEEN』も売れ行き好調と聞き、ハッピースマイルで18本のろうそくを吹き消した。花束を持って結花もかけつけてくれて、この日、由真はホントに嬉しそうな表情をしていたよ！

これからも由真を見守ってください



▼いちごのいっぱいのったバースデーケーキのろうそくを一息でフッ！



▲スケバンが終わってからも、DJを一緒にやってる仲よしの結花。



▲ヒマワリがいっぱいついた衣装がカワイイ。



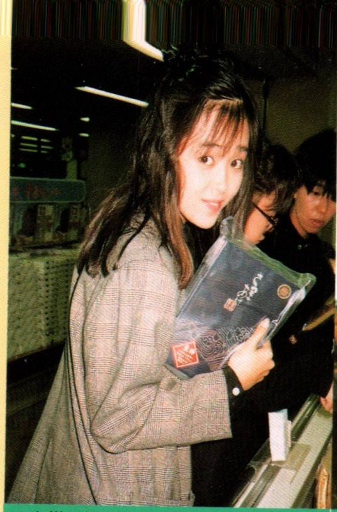
▲ソロでは『水に落ちたバイオレット』のほか、4曲歌った由真。



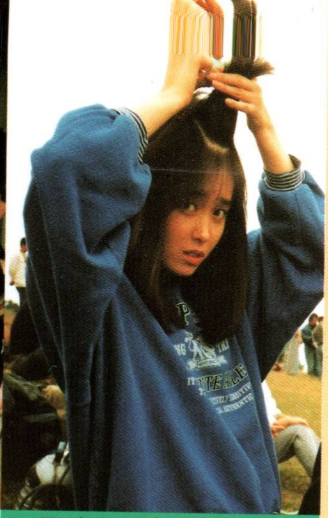
▲スケバンの、楽しい思い出、ツライ思い出を卒業して、シンガー・中村由真としての第一歩だ！

62年11月
鹿児島ロケで由真が落馬というアクシデント発生

映画『スケバン刑事』の撮影も、いよいよ大づめ。馬に乗るシーンを撮影するために宮崎県の都井岬へ行った由真に、もちろん、OREも同行したのだ。乗馬は初めてという由真は、撮影前の練習の時には乗馬の先生に、「初めてにしては、ウマイ!」とホメられていた。そして、本番。1回NGをだし、2回めの本番のとき。馬の走るスピードが少し速すぎて、由真がバランスをくずしてしまったのだ。体がグラリと横に傾き、あっという間に、由真は馬から振り落とされてしまった。幸い、馬には踏まれなかったし、たいしたケガもしなかったけど、落ちたときに思いきり体を打ったみたいで、とても痛そうだったよ。ホントにもう、ヒヤヒヤしちゃった!! でも、たいしたケガもなくて、よかった、よかった。なのに、由真ったら、「もう二度と馬には乗りたくなーい。でも、結構、面白かったなあ」だって。あんまりOREたちに心配かけないでくれよ! なっ。



▲九州のお土産は、さつまあげにしようかナ? 空港の売店で。



▲ヘアスタイルは、女のコの身だしなみ。でも、こんなとこ撮っちゃ、ヤーダ!

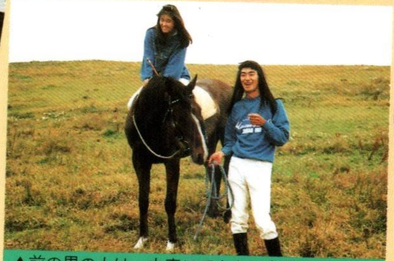


▲落馬しちゃったけど、帰るころにはほら、こんなに元気だったよ、ホッ



▲見わたすかぎりの牧草地。由真もつい子供のころに戻って、走り回っていたよ。

九州の自然が
気持ちイーイ



▲前の男の人は、由真にできない危険な早がけシーンの代役をしてくれるスタントマンだよ。



62年12月
由真と一緒に、スペシャルクリスマスナイト!!

由真が結花と2人でDJをしている、文化放送の『ティーンズ・ブリブリ・クラブ』のスペシャル版として、クリスマスパーティーが行われた。場所は、スケバンの撮影でも使われていた、思い出の銀座ヨットクラブ。「ここに立つと、海にたたき落とされたことを思い出しますね」と、なつかしそうだった。

クリスマスということで、サンタクロースの衣装で登場して、みんなで『赤鼻のトナカイ』や『サンタが街にやってきた』を歌ったりしたんだ。その後、ファン参加の仮装大会なんかもあって、由真は笑いっぱなし! この日は、ファンにとっても、由真にとっても忘れられないクリスマスになったね。でも、いつかは、由真と2人っきりで、イブの夜を過ごしてみたいゼ!!

▼『水に落ちたバイオレット』も歌ったんだよな。







▶「あんまり元気がないと、ヨットに乗って帰っちゃうゾッ!!」の声にファンは大騒ぎ。

62年12月
記念すべき本格的ファーストコンサートも大盛況

待ちに待った由真の本格的なコンサート。この日、日比谷公会堂には早くから由真のファンがたくさん集まった。みんながずっと楽しみに待っていたコンサートだから、始まると同時にすごい声援。ステージの上の由真もそんな熱い応援に応えるように、自分のレパートリーのほか、大好きだという渡辺美里の『マイ・レボルーション』やユーミンの曲を歌ってくれた。クライマックスは、由真がこのコンサートで着ていた衣装と、コンサートスタッフのジャンパープレゼント。もう会場中大騒ぎで、大変だったんだから。ホントにすっごく楽しいコンサートだったんだよ!



▲最後に会場のファンにプレゼントした衣装を着てステージに立つ由真。

▼わお、豪華なクリスマスツリーふう衣装。「素敵な思い出にしようね」の言葉にピッタリ。



▼バラードを、思い入れたっぷりに歌いあげる由真。ドキッとするほど大人っぽい表情に胸キュン。



62年9月
スケバンの次は婦人警官「キミも逮捕しちゃう!?」

この日、由真は築地警察署の一日婦人警官に任命された。ブルーの制服をキリリと着こなした由真に、集まったファンもホッとため息。ホントに由真って、どんな服でもすごく上手に着こなしちゃうんだもん。スケバンのときもカッコよかったけど、制服姿もイカすよね。

築地署の署長さんに一日婦警のたすきをかけてもらって、ご満悦の由真。「スケバンの次は婦警さんの役をやらせてもらいたいな」ナンテ、いってたよ。それから、銀座ソニープラザ前の特設会場で、『パニック』など数曲のヒットナンバーを熱唱。その後は、司会の落語家さんや会場のみんなと一緒に、交通ルールの○×クイズ大会を楽しんだのだ。由真と一緒だったから、みんなすごく勉強になったっていってたよっ!



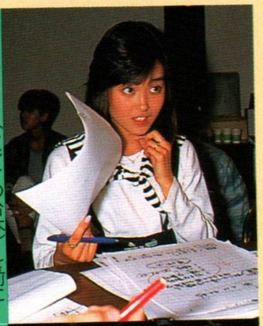
▶由真が着ると、ブルーの制服も、最先端ファッションみたいだね!?


▶築地署の署長さんから、賞状をもらってニッコリ微笑む由真。


▶会場はすごい人だかりで、ナント交通渋滞になっちゃったんだゾ。

62年10月
仲よしの結花と、大ハシャギでラジオのDJ出演

文化放送『東京っ子NIGHTお遊びジョーズ』で、結花と一緒にDJに挑戦した由真。なにしろ『スケバン刑事』の撮影で毎日のように顔をあわせてた仲よしのふたりだから、打ち合わせのために文化放送の特別スタジオに集合したときから、そのニギヤカなことといったら! 結花が食べてるお弁当を由真が一口もらったりして、きゃあきゃあワイワイ。本番中もノリはそのままで、とっても楽しいおしゃべりを聞かせてくれたよ。放送中にはもうひとりの仲よし、唯からの電話もあったりして、おおいに盛りあがっていた。それにしても、マイクを前にしても、いつもと変わらない飾らない素顔を見せてくれる由真に、またまた感激しちゃったのダ!


▶Qシート（ラジオの台本）を前にして、真剣な表情で打ち合わせ。


▶由真チャンたら、マジな顔して、ヘッドホンで何を聞いてるのかな?





▶結花が持ってるジョーズとラジカセのぬいぐるみに、由真も大喜び。

62年10月
最後のスケバンシリーズ映画もクランクイン!

テレビの『スケバン刑事Ⅲ』が終わると思ったら、東映映画『スケバン刑事〜三姉妹の逆襲』で風間三姉妹が戻ってくることになって、ファンを大喜びさせた。クランクインしたばかりの撮影現場をのぞいてみたら、スケバンシリーズ最後の作品とあって、由真や他の出演者、スタッフもたいへんな意気ごみ。カメラが回りだすと、しばらくブランクがあったことなど信じられないほど、〝リリアンの由真〟になりきっちゃう由真。この映画は、三姉妹のキャラクターをいかして、明るい冒険物、日本版『インディ・ジョーンズ』をイメージして作られた。「本当に、最後の最後のスケバンだから、ふさわしいものになるよう精一杯ガンバリます。絶対にいいものにするから、みんなも楽しみにしててね」と抱負を話してくれた由真。その言葉どおり、ナイス・エンターテインメントにしあがって、初日から大入りの大評判。全国の由真ファンとスケバンファンを興奮させたね。


▶東京湾ぞいの倉庫街で、朝早くから撮影中の三姉妹だよ。


▶一歩間違えば、大ケガをしてしまう危険なシーンにも挑戦!




▲深夜にやっと撮影終了。「帰ったら、バタンキューかもね。おやすみなさい」


▲共演の大ベテラン長門裕之さんも思わず感心するほどの、由真の迫真の演技。

62年8月

唯や結花と一緒に、由真もアツク燃えたつま恋！

静岡県のつま恋に、全国のスケバンファンが集合した『スケバン刑事フェスティバル』。出演者はもちろん、由真と唯、結花の風間三姉妹だよ。大好評だったこの番組ももうすぐ終わってしまう……というので、前夜は遅くまで1年間の想い出をしんみり語りあっていた3人。でも、当日はカラッと晴れあがった青空の下、立ち見の場所からもファンがはみだしてしまうという大盛況で、3人もノリにノっていた。1人ずつ得意なアクションシーンを演じながら舞台に登場してくると、由真にもひときわ大きな声援。それぞれのソロのほか、3人でキャンディーズの曲なども披露。最後は、涙、涙で、2回のアンコールにも応え、感動的な幕切れだったんだよ。





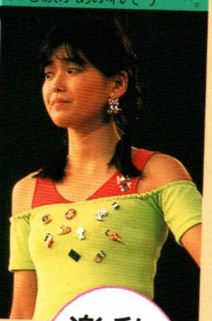
▲全部で5曲も、ソロの曲を歌ったんだよ。

▲終了後の記者会見でインタビューされてる由真。

▼難しいアクションをピタリときめる由真。

▼みんなの大声援に、今にも涙があふれそう……。









▲見よ！ このスゴイ数のボーイズを。あんまりたくさん集まってくれたので、由真自身もビックリしちゃったんだよ。



▲シースルーのブラウスが、なんだかとっても色っぽいなー。



▲楽屋でプリンをパクリ。これが、元気の素かもしれないね。

62年7月

超過密スケジュールの福岡ツアーは超パニック!?

新曲『パニック』のキャンペーンのため、福岡へ。この日は、羽田空港を朝7時過ぎに飛びたって、福岡市のデパートでミニ・コンサート。ラジオ3局に出演し、現地の雑誌3誌の取材を受け、最終便で東京へ戻るという殺人的なスケジュール。しかも、由真は当日配るサイン色紙400枚を、前の日徹夜で書いたんだって！ いくらお元気少女の由真でもバテちゃうんじゃないかと、スタッフはずっとハラハラしていたのだ。ところが、当の由真はそんな心配どこ吹く風。楽屋ではチョコマカとみんなのゴミを集めていたし、超満員のコンサートでも大ハッスル。由真の元気で九州ボーイズをノックアウトしちゃったのだ。

62年9月

読者スタッフがEOSを使って、由真をパチリ！

ＯＲＥで由真の表紙と巻頭カラー大特集を記念して、キヤノンのＥＯＳを使って由真を撮影してくれる読者スタッフを募集した。応募は、なんと2万通以上。その中からラッキーな男のコが3人、由真の撮影スタッフに選ばれた。彼らが待つスタジオに姿を見せた時、由真はセーラー服姿。「よろしくお願いします」とチョコンと頭をさげる由真を見て、3人ともボーッと興奮した顔をしていたよ。その後、服を着がえた由真をモデルに、フォトセッションが始まった。必死にファインダーをのぞきこむ3人。いろんな注文に応えて、次々とポーズをつける由真。このときの写真は、去年のＯＲＥ11月号に掲載されたんだよ。



▲モデルとカメラがいいから、ほら、出来あがりもバッチリだぜ。



▲こんなふうにして、撮影。みんなプロのカメラマンみたいだったよ。



▶撮影後に由真と記念写真を撮った今回のスタッフ。「楽しかった。ファンの人と、またこんな企画やりたいな」って由真がいってたよ。

62年9月

レコーディング中の由真は、真剣そのものの表情



▶最初はヘッドホンで歌うのが苦手だったけど、もうすっかり慣れました。

由真の待望のセカンドアルバム『GOLD RUSH』のレコーディングが、都内の某スタジオで行われた。まずは、ディレクターの山口さんと楽譜を見ながら、入念な打ち合わせ。曲目もロックンロールからバラードまでバラエティに富んでいるので、打ち合わせにも熱がはいる。デモテープの音に合わせてメロディーを口ずさんでいる時だって、つい体全体でリズムをとってしまう。そんなちょっとしたところからも、由真のレコーディングにかける意気込みがヒシヒシと感じられるね。

1曲ごとに、「この曲は女のコのこういう気持ちを歌っているのよね」と、歌詞について の話しあいも行われていた。由真の真剣な表情がすごく印象的だったよ！



▲これがその『GOLD RUSH』のジャケット写真。キミは持ってる？



▶スタジオの前に立つと、いきなりシンガー由真の顔にヘンシン！

まるごと追跡ダイアリー YUMAといっしょに400日

初のミニ・コンサートから18歳のバースデー・パーティーまで、由真を追っかけ続けたOREの秘蔵スナップをイッキに大公開！



62年6月

ケンカのシーンで、由真の瞳に本物の涙がポロリ

この日は『スケバン刑事Ⅲ』の中で、由真と唯が姉妹ゲンカをしてしまうという難しいシーンを撮る日。いつもは仲よしのふたりだけに、上手にお芝居ができるかどうか、なんとなく緊張している。テストの時は、メイクの人が人工の涙を由真に塗ってくれていた。ところが、いざ本番になると、由真の大きな瞳からツツーッと本物の涙が！　なんと由真はドラマの中の役と一心同体となって、本当に悲しくて泣きだしてしまったのだ。このハプニングで、ドラマの中でとても重要なこのシーンが、真に迫った最高の出来になったことはマチガイナシ。でも、休憩時間には、由真も唯も元の仲よしに戻って、大好きなマドンナの話で、楽しそうに盛りあがっていたヨ。



▲3人揃って、風間三姉妹。さすがにポーズもバッチリきまって、カッコイーイ！



◀髪を手ですくクセがあるっていうのは、ホントだね。



◀休憩時間になると、すぐおしゃべりに花を咲かせちゃうのだ。



▶「汗でオデコに吹き出ものできない」と結花とオデコの比べっこ。



▲フリルのスカートからのぞくかわいい足に、ドキドキ。



▲こんな服が着こなせるなんて、由真ってセンスいい〜い！



▶集まってくれたファンの人たちと、ひとりずつていねいに握手してた由真。

62年4月

初めてのミニ・コンサートに、由真ファン熱狂！

記念すべき由真のファースト・ミニ・コンサート『Jumptionコンサート』。ちょうど春休み中ということもあって、ひとめ由真を見たいボーイズでギッシリ。もちろん、ステージの上の由真もみんなの熱気に負けまいと、大ハッスルしてたよ。初めてのコンサートだというのに、デビュー曲の『ジレンマ』や、新曲の2ndシングル『シビアー』を堂々と歌ってくれたんで、ファンは大喜び。白いフリルのミニスカートや、大人っぽい黒のスーツもバッチリきまっていたよ。この時の様子はビデオになって、全国のレコード店でビデオコンサートが開かれたんだよ。

YUMA WORLD
由真の夢

近くは夏のコンサート・ツアーから、遠い将来のことまで、由真が胸中の夢をぜ〜んぶ告白してくれたよ！



プロポーズは、「結婚しよう」ってさりげなくいわれたいんです。

1年以上交際して23歳になったら、由真、結婚するの

私のイメージっていうと、やっぱり『スケバン刑事』の風間由真っていうのが強いでしょう。だから、早く、歌手・中村由真としてがんばっていきたいんです。とりあえず、夏のコンサートを成功させるのが今の夢かな。のる歌はみんなでのって、バラードはしっとり聴いてもらえたらいいナ。衣装も、ファーストコンサートの時はかわいいのが多かったけれど、今度は大人っぽいのも何着か入れたいし……。そんなことを、いつもあれこれと考えているんですよ。ドラマも、今まで強い女のコ役をやってたから、今度は白血病で死んじゃうような役をやってみたいナ。そして、最終的には、これからどんどん出てくる新人さんに「中村由真ちゃんみたいになりたいです」って目標にされるくらいになるのが歌手としての由真の夢なの。

それで、23歳ぐらいで結婚したいんです。絶対、恋愛結婚！ プロポーズの言葉は「結婚しよう」って、さりげなくいわれたい。もし、そんなふうにいってくれる人があらわれたら、きっと、必死で花嫁修業しちゃうと思いますよ。朝、早く起きて、ごはんを作ってあげるのが夢なの。現実には、一緒の時間に起きてあわてるかもしれないけどね。でも、夕飯は、ダンナ様が帰ってくるまで、遅くなっても待っててあげます。結婚記念日やお互いの誕生日には、一緒にでかけたりするような恋人みたいな夫婦に憧れてるの。

それから、子供もちゃんと育てたい。上は男のコで、下が女のコ。年の差は三つか四つって決めてるの。でも、由真は泣き虫だから子供が泣いたら、一緒に泣きだしちゃうかもしれない。困ったナ……。母親って、涙を見せないものでしょ。だから、今のうちに、いっぱい泣いておこうっと。ウフフ。

しつけは、多分、放任主義だと思います。変な意味じゃなく、子供を信じて、自由にさせてあげるというか……。私も、お母さんからすごく信じられてて、自分でやりたいと思ったことは何でもやってきたし、それだけに何をするにも責任があったのね。だから、私も、そういう母親になりたいんです。

でも「ママ宿題やって」なんていわれたらどうしようかな？ やっぱり、今のうちにお勉強しておかなくっちゃね。教えてあげられないのは、恥ずかしいもん。

名前は、大西結花ちゃんの『結花』って書いて『ゆうか』って読ませようかナとか、男のコだったら『翔』とか……。でも、まだ恋人もいないのに、そうやって夢ばかり見てる私って、マンガチックでしょ。途中でいつも笑っちゃうから、名前はまだ決まってません。ダンナ様と一緒に考えればいいもん！ 子供がある程度おおきくなったら、パートでレジとかやってみたいナ。本を書いたりするのもいいかなって思うけれど、とにかく、結婚後は今のお仕事はスパッと引退しちゃいたいんです。私って、あれもこれも器用にできるほうじゃないし、聖子さんより、百恵さんタイプの結婚がいいナって思っちゃう。

そうして、年をとったらスプーンおばさんみたいなかわいいおばあちゃんになりたいの。『由真おばあちゃん』って呼ばれたいナ。年をとるのがイヤだとか、そういうこだわりはないんです。年を重ねても、今の気持ちを大切にできる人でいたいと思うの。

by 西谷泰人

PALM-READING

恋をしてれば幸せ満開、気まぐれ由真の乙女ごころに、恋愛戦線異状アリ!?



〝スケバン〟で人気が急上昇した由真だけど、運命線によると去年後半はエネルギー充塡の年。今年はもっともっといろんな分野で大活躍して、大いに花開く年なのだ。薬指の下の太陽線、これが1本でもあると成功に導く相なのに、由真にはなんと4本も。四つの分野で成功できるというわけだね。恋愛のほうはというと、金星帯は〝恋多き女〟、2本の感情線は〝いいよる男性数知れず〟を表している。これは少々波乱含みの恋愛模様みたいだけど、さっきの太陽線がちゃーんとハッピーな結末を予想しているから、ご安心。



★ここを見るのだ!

●生命線から上向きの短線がたくさんあるのは努力家。
●知能線が離れて出発しているのは、大胆な性格。
●先端が枝別れした感情線は、気持ちの変化が激しい。
●金星帯のある人は、敏感な感性の持ち主。
●木星丘が発達しているのは、経営者などリーダー向き。

●年齢算出法は、手相秘術「流年法」による

●恋愛運は!?

ほっそりした手の持ち主だから、相性ピッタリなのはナイーブな芸術家タイプ。でも恋の持続は難しそう。感情線の先の枝別れは気分にムラのあるお天気やさんの相なのだ。

●結婚運は!?

2本の感情線(二重感情線)がある人はモテモテで相手に困らない。そのなかで、本命はというと、運命線上の23歳と25歳のときの相手。運命線に流れ込む25歳で結婚するほうがいい。

●仕事運は!?

これはもう、人気運命線(手のひらの外側から中指に昇る運命線)を見れば、芸能界にピッタリの相。チャンスは決して逃さない。4本の太陽線で成功は保証されているしね。

●由真の将来はこうなる!

木星丘が発達している人は、非常に指導力のある人。生命線から昇るたくさんの線は、努力家の証拠。だから、金星帯の意味する芸術性を、たくさんの人の支持を得て(人気運命線)、努力と行動力で実らせてしまうという芸能界に最適という相。大人気間違いなしだ。

●由真の攻略法見つけた!

感情線も知能線も先別れ、金星帯もしっかりしているのは、かなり気分やであちこち迷いやすい証拠。そこで、由真攻略のポイントは、考えるスキを与えず、毎日キミの存在をアピールして気を引くこと。知能線離れ型の由真は意外と大胆にキミに飛びこんでくるゾ。

典型的B型女のコの口説き方



血液型、星座、十二支と、由真のアタック法の完璧分析だ!!

「短気、気分や、喜怒哀楽激しく自己主張が強い」由真は、性格、思考、行動のどれをとっても典型的なB型の女のコ。口説く場合は、まず情緒が安定しているかいないかを知ること。調べるのは簡単、「元気~」と聞くだけ。根が正直だから自分が情緒不安定なら、「落ち込んでいる」と返事する。そしたら出直せばいい。口説きは正面からの正攻法、「おまえが好きだ」でよい。血液型からの相性はO型がベスト。B型もいいが、似た者同士で一度コジレたらお互いがソッポ向くという関係になりかねない。AB型は無難といった感じだろう。

つぎに由真の星座は『みずがめ座』。「星座からいうと、性格はクールで知的なんだって。私をよく知ってるヒトは『ピッタシだけど、黙ってりゃのハナシ』とかいう。うん、私もそう思う」だって。B型気質はヒトを冷静に見通すからカケヒキなんてムダ。B型女性には心でぶつかること。気取りや見栄は通用しない。星座からみた相性は、ふたご座、てんびん座。

由真のエトは戌年。戌年生まれの性格はおとなしく正直であるというのが特徴だ。「うん、人見知りするのはおとなしいからね。ただ、気を許すまで時間がかかる。でも好きになったらトコトン尽くします」

犬は人になつくというように、B型の女のコも好きになったら、犬のごとく忠実な恋人になる。が、飼い犬に手を噛まれるというように、裏切ったら怖い相手だ。

もっと!

とことん知りたい QUESTION!

息もつかせない質問のラッシュに、ときにはニッコリ、ときには眉をよせ、ときにはホッペをふくらませながら、もっと聞きたい、もっと知りたい由真のホンネを、あんなこと、こーんなことまですっかり喋ってくれた。由真に感謝!! だね。

「同棲!? 仕方ないかも」と大胆発言



●朝起きてまずすること
ベッドの上に正座してボーッとする。

●化粧時間はどのくらい?
時間内にできるけど、ていねいにすると30分間ぐらいかかる。

●日記はつけてる
つけてます。小学校5年生ぐらいから毎日じゃないけど、ずっとつけてる。

●好きなスポーツ
バドミントンとバスケット。

●自分の顔で、いちばん好きなところ
鼻。

●子供のころ、なりたかった職業
歌手とお嫁さん(!?)。

●もし生まれかわるとしたら、男と女とどちらがいい?
女。男のコより、なんかトクっていう感じがするでしょ。

●クセ
つい髪の毛を手ですいちゃう。

●寝るときは、フトンorベッド?
今はベッド。でもフトンのときもある。

●行きつけの美容院は?
六本木の美容院に行きます。

●もし宝くじが当たったら?
半分、洋服など買いたいもの買って、あと半分は貯金します。

●占いを信じる?
信じます。手相でも星占いでも、なんでも信じちゃうの。

●カラオケのレパートリー
演歌も歌うけど、やっぱりアイドルの人の歌が多いです。特に、中森明菜さんが好きで、「ジプシー・クイーン」はよく歌ってました。

●初めてブラジャーをつけたのは、何歳のとき?
えっ、そんなのいうの? ……中学1年のとき。

●雑誌がヌードを撮らしてくれといったら?
イヤだ! 命かけてイヤだ。

●特技
珠算2級。4ケタの暗算ができる。

●好きなマンガと小説
マンガは前原滋子、小説は赤川次郎。

YUMA NAKAMURA

●ラブレターをもらったこと
あります。読んだけど、まだお付き合いする気はありませんと返事を書きました。

●理想的な結婚相手
強引で、ちょっとだけ亭主関白な人がいいな。

●同棲(どうせい)について、どう思う?
私はイヤだけど、好きだったら仕方ないかも。

●部屋にいるときのカッコウ
ロングTシャツとか、楽なカッコウをしてます。

●電話は長いほう?
長いです。最高記録は、6時間!

●なんでも相談できる人
お母さんと親友2人(女のコ)。

●将来、好きな人ができて、「仕事をやめろ」といわれたら?
すぐやめて、結婚します。

●もし、スキャンダルに巻きこまれたら?
無視します。

●寂しいとき
友達に電話します。

●友達と話しているとき、その話の内容がワイ談になったら?
一緒にしゃべります。

●もし、友達が失恋したとしたら、何といって慰めてあげる?
「もっといい男がいっぱいいるよ」

●今までいちばん嬉(うれ)しかったこと
自分のレコードを出せたことと、たくさんの人に誕生日を祝ってもらったこと。

●欲しいプレゼント
何をもらっても嬉しいけど、可能なれば時間がほしいナ。

●今までいちばん怒ったこと。
昔はしょっちゅう怒ってたけど、最近はあまり腹がたたなくなっちゃった。

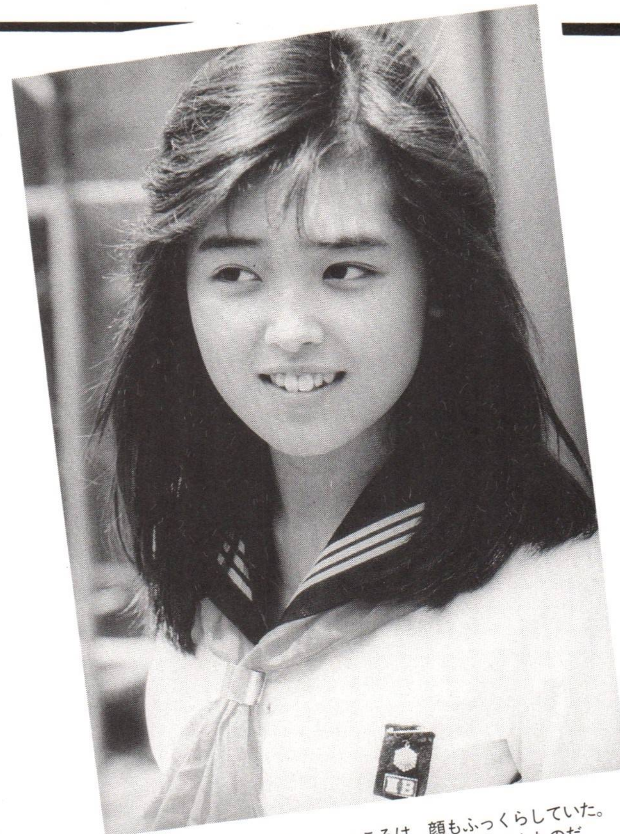
●最近、悔しかったこと
別にない。何もないの。どうしてかしら。



▲TV出演では〝本番に強い由真〟の本領を思う存分発揮したのだった。

▼初めてのレコーディングで、由真はヘッドホンの使い方に悩んでしまった。





▲『スケバン刑事Ⅲ』に初出演のころは、顔もふっくらしていた。ハードトレーニングを積んで、顔つきも引き締まってきたのだ。

〝本番に強い由真〟の片鱗をみせた、度胸の初TV出演!!

☆カメリハでメロメロも本番で本領発揮

『ザ・ベストテン』(TBS系)が初めてのTV出演だったから、カメリハでは、アガリまくって、音程はずしまくってたの。事務所の人の顔なんかもう真っ青。ところが本番では、サラリとやってノケましたです。おまけに、司会の黒柳(徹子)さんから「ワタクシに会いたいとおっしゃってたそうですが、どうして?」と予定外のこと聞かれて、「え~、黒柳さんって、いつも早口でペラペラ喋るけど、どうしたら、あんなふうにできるのかなとか思って」とかいっちゃった。事務所の人はまた真っ青。私はニコニコ。以来、本番に強い由真で通ってます。

☆歌番組の控え室のケーキが食べた~い

『ザ・ベストテン』で、小泉今日子さん、荻野目洋子さんと楽屋で一緒だったんです。もう、どこにいたらいいのかかっていうくらい緊張していたら、キョンキョンさんから、「ケーキ食べる?」とかいわれて、感激で顔がヒキツってしまって、心とは反対に「いえいえ」とか断ってしまったの。ザンネ~ン! すっごくオイシソ~だったのに。で、本番が終わってから、「あれが食べた~い!」とかワメいたけど、どこにも売ってなかった。キョンキョンさん、あのケーキ、どこで買ってきたのかなあ?

☆食べたアイスクリームが50本

初めてのテレビCF撮りで、初ハワイロケした時は、慣れなくて、アイスクリームをなんと50本も食べちゃった。グリコのアイスクリームのCFだったんですけど、1本食べたかと思うと、「目をつぶってたから、もう1回願いま~す」とかいわれて食べるでしょ。それで、やっとOKが出て、勘定してみたらなんと50本! いくらハワイでもトリ肌が立った。ところが、帰国したらその商品が変更になったとかでCFのほうもボツ。大泉のスタジオで撮りなおしだって。一体、ハワイへなにしに行ったの!って思っちゃった。でも、もう一度行きた~い!!

☆海外では、お昼寝してからショッピング!?

写真集の撮影で海外へ行ったのって初めて。アメリカ本土も初めて。だから、ウキウキしちゃって、着いた日の午前中にホテルにチェックインしたら、すぐにショッピングに出かけたの。そしたら、歩いてるうちにおなかが痛くなってきて、ホテルへUターン。飛行機に10時間ぐらい乗り続けで、ほとんど眠ってないのにドタバタしたからだと思うの。今度行ったら、お昼寝してから出かけよう!

初体験テレビCFがこれ!



初めてのテレビCF出演は、グリコのアイスクリームのCF。ハワイ・ロケに行ったけど、結局、都内のスタジオで撮りなおして、できあがったのがこのCFだ。急増中の由真ファンの間では「パモナフルーツ、食べた?」が合言葉になったんだって。

り寒いからって、豚汁とかで温めたんだけど、食べられなくて、薬飲んで演ったの。そしたらかずえさんが暖かくなる方法を教えてくれたんです。大感激でした。

☆長門裕之

長門さんにはウラミがあります。だってひどいことをいったんです。映画『スケバン刑事の逆襲』の時、スタッフとかの前で、「由真はこのコたちの中でいちばんブスだったのに、いちばんキレイになったなあ」とか、大きな声でいっちゃうんだもん。絶対、傷つきましたよ。でも、よ~く考えたら、すっごい誉め言葉なのね。だからホントはうれしいの。長門さん、アリガトウゴザイマシタ。

☆萩原流行

このヒト、はじめ怖くてね。ドラマで共演しても初めのころは、人の陰とかに隠れて、できるだけ目線を合わせないようにしていたの。だって演技とかハンパじゃないでしょう。だから、できることなら話をしないでいたいなとか思ってたの。ところが、どこかの神社のロケの時、みんなでタキ火してるところへ萩原さんが割り込んできて、お喋りし始めたら、これが面白いし、気配りとかもしてね。初めのイメージと全然違ってて、その時から、ステキな人だなあって思うようになったのです。

☆京本政樹

京本さんに初めて会っていわれた言葉が、「きみって顔が小さいね」だったんです。そんな京本さんのほうは、しっかりお化粧して、メバリとかも入れてるので、その時じいっとみつめてた。不思議な魅力のある人ですね。

☆番外編

この他にも、いろんな方と出会いましたけど、とくにドラマの役者さんって、これなら人に負けないとかいうものを、持っているのね。そのことはすごく勉強になりました。



YUKA OHNISHI

YUMAの芸能界初体験！

●誰にとっても〝初体験〟というのは忘れられない思い出だ。由真にとっての芸能界初体験も、涙あり、笑いあり、そしてまたまた涙あり(！)というものばかり。そんな由真のドキドキ初体験のかずかずを、ドドッとまとめて聞いちゃった！



▲ラジオでのおしゃべりは、最初から得意だった。



▲キャンペーンでは多くのファンに応援されて大感激！



◀『パニック』の新曲発表キャンペーンで歌っているところ。

由真のデビューは、涙なくしては語れない感動物語だった!?

☆ナミダの初レコーディング

私の初めてのレコーディングの時、すごく緊張していたのと、全然慣れてなかったので、一度音程外したら、最後まで合わないの。もう、悲しくて、1時間くらい泣きっぱなし。風邪をひいたうえに、ノドをしめちゃってたんで、声が出なかったんだって。あとで、そんな時にアイスクリーム食べてちゃダメってこと分かったんですけど。その時は、このまま消えてしまいたかった。いまでは、貴重な思い出ですけど。

☆キャンペーンで友達の応援に大感激!!

初めてのキャンペーンは、東京の星陵会館であったんです。その時もすごい泣きましたね。歌い終わって泣くんじゃなくて、歌ってるステージの上で涙がポロポロ……。知ってる友達とか、いろんな人たちがたくさん来てくれて、もう、すっごく嬉しかったんです。キャンペーンで泣くなんてめったにいないよって、周りの人からいわれたんですけど、私って、変わってるのかなあ……。

☆初アクション体験はホント、つらかった

『スケバン刑事Ⅲ』(フジテレビ系)で、初めてドラマ体験したんです。普通のシーンでは、ずっと心臓ドキドキだったけど、唯(浅香)や結花(大西)の仲よしが、「大丈夫だよっ」っていってくれたのが、すごい励みになったの。アクション・シーンの時は、長いし、厳しいし、NGは出すしで、もうハンパじゃなかった。ここで泣いたら一緒にやってる周りの人たちに迷惑かけちゃうから、と思って、涙が出ないよう我慢してたの。でも、OKが出た途端、やっぱしボロボロでしたよ。

☆声が出なくて苦闘のレコーディング

LPの録音してたころは、ちょっと歩くのも大変なくらいに、体中がガリガリ(?)で、すごい仕事していた時期だったのです。レコーディングも、何度も中止になったし、声が出なくて歌えなかったりしてたし……。でもやっと終わって、「いいものができたね」ってスタッフの人にいわれた時は嬉しかった。デビュー曲で、売れなかったらどうしよう、と思ってたんだけど、その心配も消えたし。

☆デビュー前なのにファンがうわさして

初めてコマーシャルのお仕事したのは、小田急のポスター撮りだったんです。鎌倉の鶴岡八幡宮へ行って、冬で寒いのに着物着て。その時はまだ、レコードデビューの前だったのに、もう由真のこと知ってる人が集まってきてね、うわさしてるんですよ。恥ずかしくって、早く撮影終わらないかなあって思ってた。初詣(はつもうで)のポスターだったから、撮影したのは、たしか、2年前の11月くらいだったと思いますよ。

楽屋交遊録

ヒソヒソワクワク、これが由真の交遊関係!!

☆浅香唯・大西結花

この2人とはね、『スケバン刑事Ⅲ』で一年半以上一緒した仲だし、初めから気が合ったから、私の交遊録からは絶対外せない。助け合ったり、励まし合ったり、迷惑掛け合ったりと。え？ 合ったりじゃなくて、由真が全面的に世話になったんだろうって、アッタリ！ でも、この2人がいたので心強かったです。これからもずっといい友達でしょうね。

☆山瀬まみ

彼女とはデビュー前からの知り合いです。会えば子猫みたいにジャレちゃいます。そういうコは、他に森谷香ちゃんがいるけど、まみの場合は、泣き虫っていう共通項があるから余計親しみがわくの。アイツ(と呼べるのはまみだけなのです)とは、電話はじめたら終わらないの。「今日ねえ、テレビ局でねえ」とかはじまると、最低でも2時間は喋(しゃべ)りますね。

☆神田正輝

ドラマ『恋はハイホー』(日本テレビ系)で共演してはじめて会いました。前に事務所の忘年会に来てくださって、私の初コンサートのこと話したら、「時間があったら行く」とか約束して。結局、ドラマが入って、来てはくださらなかったけど、お花を届けてくれて、サッスガーとか思った。私って、2枚目っていうと、冷たいとか思い込むんでいるんだとか思い込むんですけど、神田さんは違っていたんですね。

☆伊藤かずえ

『スケバン刑事Ⅲ』のスペシャルで初共演して、親しくお話したのははじめてでした。でも、歌番組でも会ってたし、はじめてって感じじゃなく、「元気〜」とかいって、すごく優しかったな。その撮影が真冬のロケで、あんま



YUI ASAKA

由真には普段着でつき合うことが肝心。〝普段着流交際法〟を伝授しよう!!

攻略法



由真をひとり ATTACK!

由真を口説くには〝当たって砕けろ〟の精神が不可欠だ。「好きだ」くらいしかいえない口下手なキミも、この突撃精神があれば道は開かれるのだ!!

●当たって砕けろ!

まず、軽く様子を見てとか、段取りを決めてからなんていう口説き方では、由真は振り向いてもくれない。

「手紙とか電話とかではいやですね。だって手紙はいいことばっか書けるし、電話はいいことばっかりいえるでしょう。そういうのは(好きだとかいうこと)直接聞きたいな」

これでお分かりであろう。ちょっとナミの相手ではないといった雰囲気なのだ。

じゃどんな雰囲気の中で、愛を告白したら受けつけてくれるのか。

「どんな場所でもいい。喫茶店でもいいし、歩きながらでもいい」

しかし、藪(やぶ)から棒に告白していいものなんだろうか。「そのほうが意外性があるじゃない」だって。これはまた意外性のある返事。ついでに告白の言葉はどんなのがいいか。

「あんまりね、ごちゃごちゃ、クドクドは嫌だからねえ」

と、「好きだ」くらいしかないけど、そんなもんでいいのかなぁ。「う～ん。いいよ」というのだ。まったく珍しいケース。これなら、口下手な男のコでも、実行力さえあればなんとかなる。「当たって砕けろ!」

●由真の前では気取りを捨てろ

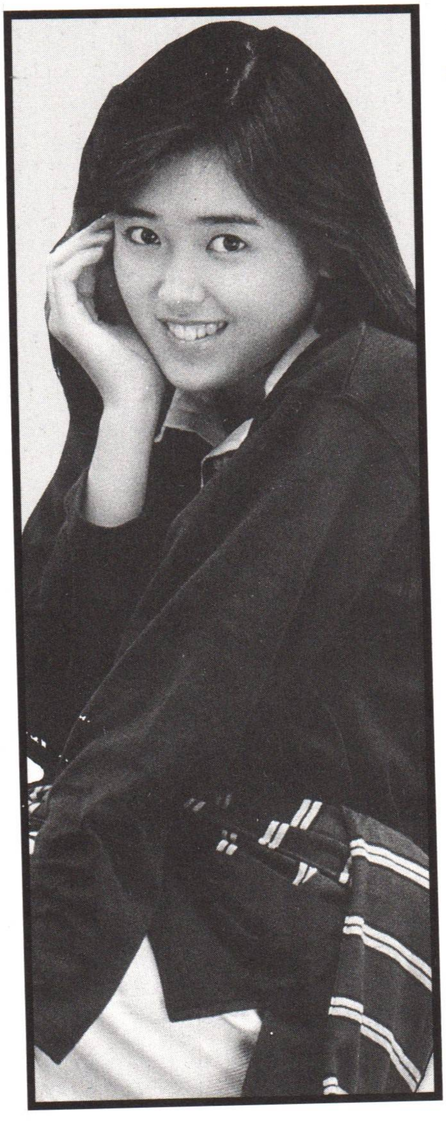
さて、無事第一関門は突破したとして、デートコースはどうする。

「車を持っている人がいいですね」

ということは、ドライブだ。しかし、これはあくまでも願望であって、車がなくても由真は、肘鉄(ひじてつ)を食わすようなことはしない。

「私、気取るのって得意じゃないから、たとえば、テニスとか行くんだったら、お揃いの白のTシャツにジーンズ、スニーカーがあればいい。それも洗い立てなら古くてもいい」

普段着で十分なのだ。むしろ、一度好きになったら、その人好みの女のコになりたい。そこでお揃いという言葉になったのだ。↗



なにしろ、寒いのが苦手でスキーは嫌いといいながら、真冬に彼から呼び出されても、「絶対、飛び出して行くもん」というくらい情熱家なんである。

「私、結構尽くすタイプなの」

なんてったって、料理は好きじゃない。どっ↗ちかといえばニガ手なのに、「好きになった人がこんなの食べたいっていったら、一晩中かかっても頑張る」というのだから。ただし相当の忍耐力を要求されるだろうが。

女のコによっては、何でも一流でなければというのでお金がかかるものだが、由真は、その点は心配ご無用だ。

「彼と飲んだり食べたりするなら、居酒屋がいいな。一品料理を二つか三つ頼んで、2人で箸をつつきながら。うん。絶対それ」

●男は外見じゃない中身だよ

とにかく、一生懸命であれば、外見や言葉を飾らなくてもいい。むしろ、下手なお世辞は肘鉄(ひじてつ)のモトだよ。

「私って、喜怒哀楽が激しいから、どんな好きな人でも喧嘩したり、泣き出したりすると思う。そしたら、ほうっといて。でも、私一人にしないでっていう」

男としては、ここがいちばん難しいところ。ほうっといてというのは、由真の気持ちを察して黙って見守ることができる男のコでなければならないのだ。つまり、由真を心から理解していないと、ただの傍観者になってしまう。

ならどうしたら傍観者にならずにいられるか。それはさっきからいっているように、気取るな、飾るな、普段着で付き合うことだ。

「私、スポーツしている人、仕事に打ち込んでいる人ってすごく好き、たとえば髭(ひげ)ぼうぼうでもかまわない。私も地で付き合うから」

つまり、地で付き合うことができれば、由真の気持ちがわかるはず。と、傍観者ではいられなくなるはずだ。

そして、もっと由真がわかってくれれば、夏の夕暮れの海に誘いたくなる。なぜなら、由真のファーストキスは、

「夏の夕暮れの海で、サザンのBGMを聞きながらってキメちゃってるんだもン」

以上が由真の攻略法だ。いわゆる男なら一度は攻略してみたい美しいターゲットだね。

じめ大作戦!!

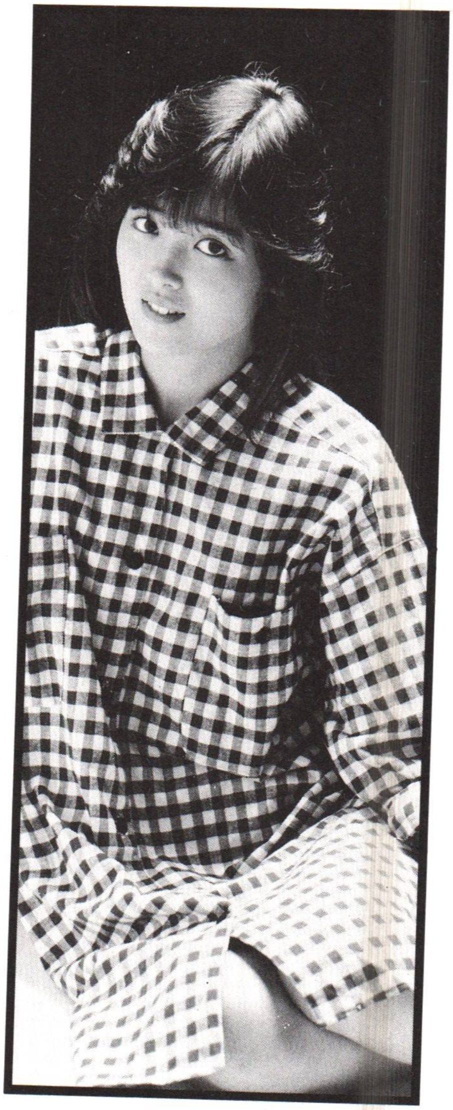
ONYUMA!



ただ見ていたんじゃ分からない由真の性格に、シャープなメスを入れた!!

性格分析

小さいころから泣き虫だった由真だけど、晴れる時はカラッと晴れる。いってみれば夏の夕立型。あくまでも陽性の泣き虫っコというタイプなのだ。



●由真の性格を自己分析すると……

「とにかく、絶対気分やだし、喜怒哀楽が激しいし、すぐ泣くし、気まぐれもいいところですよ」

泣き虫であることは、小学校時代、ほとんど泣かない日はなかったとは、『YUMAの18ねん』でも告白しているくらいだから、間違いないところなんだろうけど、気分やというのは、いま泣いたカラスがもう笑ったみたいなところがあるんだろうか。

「短気なんですよ。でもって自分の意見ははっきりいうでしょう。自己主張がすっごい強いの。それが通らなかったりすると、突然、感情が激して涙腺を刺激して大雨になるの」

いってみれば、陽性の夏の夕立型。気に入らないことでもあれば、一天にわかにかき曇り、ピカッ、ゴロッと雷鳴が轟き大粒の雨になる。が、すぐにカラッと上がって笑顔という日が差すタイプである。

●白黒はハッキリつけるタイプだ

「なんでも、はっきりしているほうがいいんです。お仕事なんかでも出来が悪かったらNGとかいってくれたほうがいいんです。悪口でもね。陰でコソコソいわれるの大っ嫌い」

このあたりは、血液型B型の典型だね。

「ウジウジするのも大嫌い。いうことはいって、やることはやって、それでダメなら自分が悪いんだからって納得します。だから、他人に厳しく自分にも厳しいっていうのが、私の性格だと思ってますね」

なるほどね。そういう由真が好きになる男のコのタイプは、どんなんだろう。

●由真の好きな男のコのタイプ　1.外見

「外見からみてけば、それは2枚目で、背は175～178cm。体重が68kgくらいまでで、肩幅が広くて、筋肉がある程度きゅっと締まってて色の黒い人。あ、それから私より手が大きい人。私、手が大きいの、だから。ちょっと細かいけど、いうだけはいわして」

どうぞどうぞ、とはいうものの、これは大分絞られたって感じだね。ちなみに由真のように指の長い女のコは、空想的でデリケートなタイプが多いとか。でも、手のサイズを気にするなんて珍しいネ。

●由真の好きな男のコのタイプ　2.内面

「中身は、外見と違って面白くて、一緒にいても飽きない人。でも、ペラペラのお喋(しゃべ)りはあんまり好みじゃない。ある程度のギャグとか飛ばすのはいいけど、ダジャレの連発、口から出任せみたいなのは、軽いって感じでしょう。それから、結構、私を引っ張ってくれるヒト。正義感が強くてとか……。このへんにしておこう。そんなヤツいるかなんていわれそうだから、フフフ」

実際、こんな男はなかなかいないけど、あくまでも理想であるから念のため。

●由真の好きな男のコのタイプ　3.その他

「年は三つか四つ上の日本人ですね。前は友達感覚でいたいから、同い年とかいってたけど、やっぱりリードされたいから。趣味はビリヤードの好きな人。以上で～す」

ほう、ビリヤードが好きな男のコなんて、由真は、よくいえば流行に敏感、平ったくいえば新しいものに興味を持つ女のコということがいえるようだ。

しかし、条件はぐっと絞られた。じゃ、この条件にぴったりでなければ由真は攻略不可能なのか。な～に、女のコは、攻め方次第でなんとでもなるものなんだ。

アキラメルのは早い。むしろ、悪条件を克服してこそ男ってもんじゃないのかな。

寝るときはパジャマ。寝つきも寝相もいいそうだ。
「上着が長めでパーッと広がっているのとか、男のコ用の大きめのパジャマを着てます。スヌーピーのも欲しいけど、スエットスーツみたいのしかないんだ。一時、なかなか寝つけなくて不眠症みたいになったこともあったけど、もうだいじょうぶ。横になって1～2分で眠っちゃうの」
そのかわり、寝起きが悪くて困るんだって。
「九つの目覚ましがみんな同時に鳴るから、いやでも目は覚めるんだけど、ボーッとしてるの。毎朝、シャワーをあびないとダメなんだ」
以前は布団を敷いていたけど、今はベッドになって部屋の雰囲気がすっかり変わったんだって。
「友達のお部屋に行くと、そのたびに家具の位置とかが変わってて、すごいなあって思うんですよね。由真はそこまで凝らないけど、今度、模様替えして、とっても気に入ってます。ここでテレビやビデオを観てくつろぐんだ。友達が来ても2人ぐらいしか入れない広さなんだけど、快適ですよ」
前あったカラオケセットも片づけて、ぐっとオシャレになった由真のプライベート・ルーム。オフの日は、ほとんどここで過ごすそうだ。朝晩の布団の上げ降ろしからも解放されて、学校や仕事のある日も睡眠時間がちょっぴり延びたとか。黒いベッドカバーが部屋全体をシンプルに見せて、カッコいいね。

大公開! これがYUMAのプライベート・ルーム!



Illustration by FUJIO KAKEGAWA

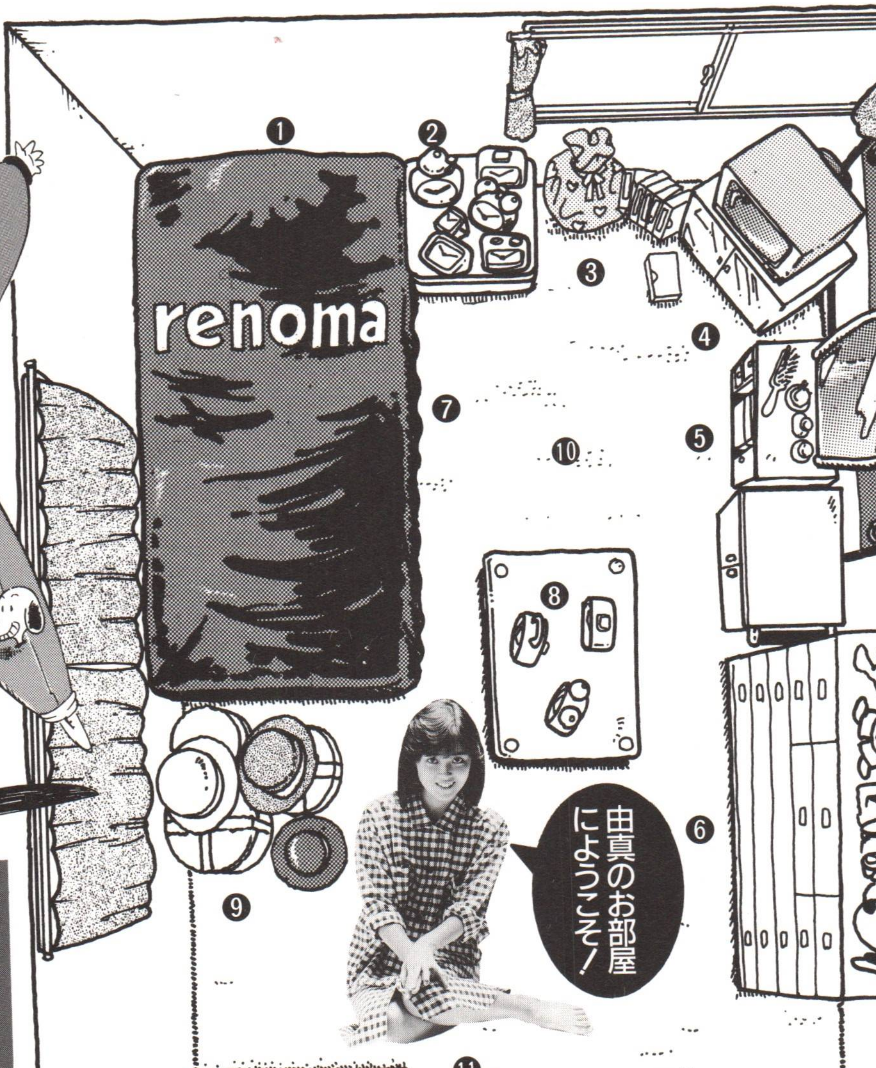


Illustration by HAIDO TAKAGI

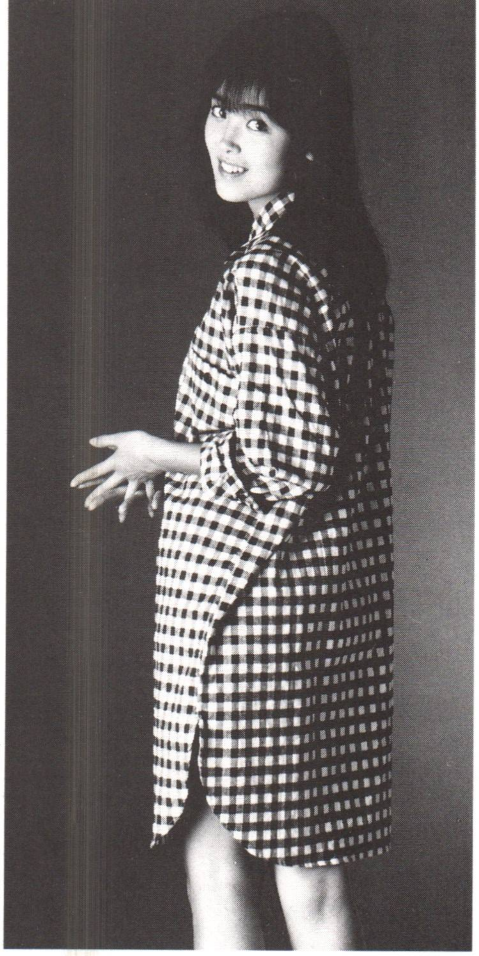
和室を洋間ふうに模様替え。ベッドによりかかってテレビを観てくつろぐんだって。それにしても、目覚まし時計の数にはビックリしちゃうね。以前はピンク系でまとめていたが、今度はモノトーンのイメージに変え、少し大人っぽくなったみたい。大好きなスヌーピーといっしょの色合いだから落ちつくのかな。これを参考にキミも模様替えしてみよう。

YUMAのスイートルーム

①ベッド　シングルサイズ。ベッドカバーは大好きなブランド〝レノマ〟の黒
②サイドテーブル　この上に目覚まし6個が載っている。時間をあわせるだけでもひと苦労。
③袋　この中に集めたマニキュアがたくさん入っている。ときどき出して眺める。
④テレビとビデオデッキ　由真の出演した作品などのテープ。よく観るテレビ番組は『はっさい先生』や、とんねるずが出ているもの。
⑤ドレッサー　ヘアメイクはほとんど自分でやれる。化粧品もたくさん持っている。
⑥タンス　衣装がたくさん入っている。上にはぬいぐるみがたくさん載っている。
⑦指定席　由真がくつろぐときは、たいていここに座り、ベッドに寄りかかってテレビを観る。
⑧テーブル　この上にも目覚まし時計が三つ。サイドテーブルの上のは寝たまま止めるので不安。
⑨帽子置場　最近集め始めた帽子が山のようにある。
⑩カーペット　グレイっぽいベージュ色。
⑪洋服ハンガー　よく着る服がかけてある。

ナイショのプライベート・ゾーンに、超ウルトラ大接近!!

●仕事も学校もお休みの一日、由真はプライベート・ルームでどんなふうに過ごしているのかな? そーっとのぞいてみたいね。



午後3時まで熟睡! めいっぱいくつろいで夜10時には消灯!?

「まるまる一日オフの日って、めったにないんですけど、そんな日は、たいてい午後3時ぐらいまで眠ってて、あとは美容室にいってオシマイなんてこともあるし、お部屋のそうじや洗濯をして過ごすこともあります。それから友達に電話をかけるぐらいで、外に出ることは、ほとんどないの」

家族といっしょに暮らしているので、オフの日はお母さんが作ってくれる晩ご飯が楽しみ。

「由真の好きなものをたくさん用意してくれるんです。鶏のから揚げと、すじこ、お刺身、しじみのおみそ汁なんかが並びます。食べながら、お仕事の話とかを、それまでできなかった分まとめてするの。いいことも嫌だったこともね。そうすると、お母さんは、〝自分で決めたんだから、お母さんに文句いうのはいいけど、表に出すのはやめなさい〟なんて忠告してくれます。お母さんて立派ですよ。とっても尊敬してるんだ」

オフの日は、ふだん観られないテレビやビデオを観られる貴重な日でもある。

「再放送のドラマとかバラエティー番組とかが好き。それと、由真が出演した番組のビデオも。『美少女学園』や『スケバン刑事Ⅲ』。『スケバン刑事Ⅲ』は、大笑いしながら観てます。続けて観ていくと、どんどんやせていくのがよくわかるんですよね。再放送で観ていたおばあちゃんから電話がかかってきて、〝ほんとうにやせたね〟っていわれたんだけど、自分で観て、びっくりしちゃった。オンエアされてたときは、演技の反省しながら観てたけど、今は客観的に観て楽しんでるの」

そのほか、お母さんが近所のレンタルビデオ店で借りてきたビデオを観ます。『ポリスアカデミー』『ザ・インプ』『ビバリーヒルズ・コップ』とか洋画が多いです。

そうこうしているうちに眠くなり、夜10時にはベッドに入ってしまう。毎日忙しい由真にとって休日は、身も心も休ませる日なのだ。

YUMAのフライドチキン

●カンタンでもボリューム満点! 大好物だから由真も作るときは真剣になるんだって。



鶏のから揚げもフライドチキンも大好きな由真。下味をしょうゆや酒、しょうがでつけ、衣をかたくり粉にするとから揚げ。塩、コショー、スパイスで下味をつけ、衣を小麦粉にするとフライドチキンになる。どちらにするかはその日の気分でＯＫ。鶏肉はささ身だと脂肪分が少ないのでうま味に欠ける。買うならもも肉がおすすめだけど、小さく切ると、揚げたとき火が通りすぎてパサパサになりやすいので気をつけよう。

学校の調理実習や、いつもおいしい料理を作ってくれるお母さんを見て、いろいろな料理の作り方は覚えられるけど、ひとりで台所に立つ時間がほとんどなくて残念だね。「でも、好きな人ができたら、ぜったいガンバッて花嫁修業するんだ。きっと上手になってみせるからね。」だって。

イラスト/うえやま とち



前の高校より、転校してからの高校のほうがずっと楽しい!?

ただ、給食委員では、結構活躍したんだ。

「給食時間になると放送室で、今日の給食はコレコレでコンナ栄養があります。とか、シナリオみたいなものがあってお喋りするの。その主役みたいなのやって、面白かった」

タレントとしての片鱗は、そのころからあったんだね。それじゃあ、男のコからはモテたんじゃないかな？

「それがダメなの。ほかに可愛いコがいっぱいいたし、だから、バレンタインデーに、そこらへんの男のコみんなにチョコレート配ってた。っていうのはウソで、ホワイトデーにお返しのキャンデーがほしいがためなんですよ(笑)。これはキッチリもらいました」

色気より食い気。もっとも小学生じゃね。じゃ、一転、中学時代はモテまくったとか？

「それが、入学式からまた泣いてね」

ナニッ、また涙の時代なの！

「だって、クラス編成の発表みたら、仲よし4人組のうち、私だけが違うクラスで。私、自分から知らない人には、絶対話しかけられないから、とか思ってショックだったんだけど、1人ね、すぐ仲よくなれた女のコができて、中学時代は、結構ね、楽しかった」

フゥ〜。よかった。一時は、由真の少女時代は、涙で綴られているのかと思ったヨ。

「小学校では、理科とか全然できなかったのが、中間テストとか頑張って99点取っていきなり学年トップ。英語とかはメチャクチャよくてね。だから成績表は、4とか5がすごく多かったの」

ヤッタ！　泣き虫由真も、もう泣かない。

「ただねぇ、中1のときだけなの。中2になったらドングリ・コロコロ(笑い)。それで中3の2学期って、高校入試の内申書にいちばん影響するときに最悪になっちゃったの」

ああ、どうなっちゃってるんだあ。

「自分でもわからないけど、ちょっと中1の成績で安心しすぎたのかもね、やっぱし」

あ、油断したんだ。もしかして部活に力を入れすぎたとか？

「いえいえ、バドミントン部のユウレイ部員だから、出たり出なかったりだった」



本当はテニス部に入りたかったけど…ネ

好きだから入ったんじゃないの？

「本当は、テニス部に入りたかったの。スコートはきたかったし、パンツもヒラヒラでカッワイイでしょ。でも、入部希望者がものすごく多くて、これじゃ絶対球拾いで終わるよとか友達にいわれて、バドミントンも同じようなものだしとか勧められて入ったの。ところが短パンだし、カッコ悪いし、先輩とかもすっごい意地クソ悪かったし、2年でユウレイもやめちゃった」

あれ〜。それっきりほかの運動部とかには入らなかったの？

「それからは、もう、帰宅部専門」

そうか、そんなこんなが成績にも響いたのかもしれないね。

「私って、とにかく間が悪いの。学校時代の思い出っていうのは、嫌なことばっかしなのね。たとえば、中学で京都に修学旅行に行って、絶対映画村を見学しようね、とかいってたのに、出かける前に友達が財布落として、それを捜しているうちに時間がなくなって、とうとう行けなかったし、夜、ほかのクラスの友達の部屋へ遊びに行くって約束して出かけ、先生に見つかって、ビンタ食ったとか、もう悲惨なことばっかしなのね」

あのね。そうなるとあとの高校のことが聞きづらくなるんだけどねえ。

「いまの高校はもう、断然楽しい。文化祭で模擬喫茶店出すときなんか、すごく張り切ってカレーの下ごしらえとかやりましたからね。その前の高校では、図書室で騒ぎすぎて叱られてつまみ出されたとかありましたけどね」

そうそう、由真は、高1までは別の高校だったんだ。芸能界へデビューして、今の高校へ転校したんだね。普通、転校生ってちょっと肩身の狭い思いをするんだけど、由真の場合は、転校したほうがよかったようだ。

「前の高校は、制服がとにかく可愛いかったんだけど、しょっぱなから宿題が鬼のように出るわ、指定バッグ以外はダメ、指定ブラウスに指定の靴、毎朝、校門に先生は立ってるわでハンパじゃなかった。よかったのは友達だけ。いまでも時々電話してる。あとは、いまの学校のほうがずっと馴染みやすいし楽しいですね」

やっと見つけた青い鳥ってワケだ。ところでさっきのカレーは、下ごしらえだけって感じだったけど、煮たりとかはしなかったの？

「仕事が入ってできなかったの。でも、私、煮たりとか得意じゃないからよかったの。やってたら、火傷とかしてたかもしれないし。でも、食べましたよ。オイシかったあ」

どうやら由真の18年は、泣き笑いの18年だったようだ。でもいいサ、本当の由真の人生はこれからなんだから。ガンバだ。由真！

思い出いっぱいの18年だけど、いちばん楽しいなって感じるのは、今の学生生活かもしれませんね



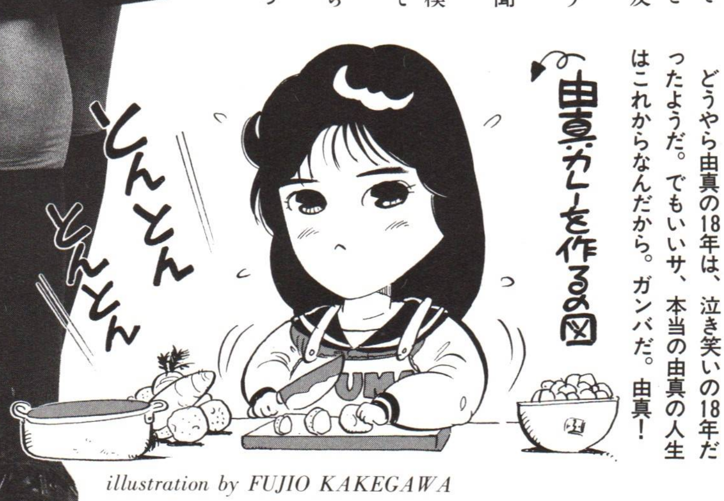


illustration by FUJIO KAKEGAWA

GROWIN'UP

YUMAの18ねん

「オギャー!」と生まれた時からこれまで、由真はどんな少女時代を過ごしてきたんだろう? 知られざる過去を含めて、由真自身が熱心に語ってくれた、由真の生いたちヒストリー!!



人見知りの少女時代からこんなに成長。泣き虫由真が自ら語った18年!!

由真の小学校時代の思い出は、涙、涙のものがたり!?

「あのね〜、パチンコやりたいのお」

真面目な顔してなにをいい出すかと思ったら、いきなりこれだ。

「保育園とか小学校のとき、叔父さんに連れて行かれてたの。まだハンドルで弾いてた時代によくやったの」

まさか、物心ついたときからパチンコやってとかなんていうことは? ないよね。

「ウチ、私が3歳くらいまでに5〜6回、引っ越したっていうけど、そういえば、なんか家の周りの景色がよく違っていたなくらいしか覚えてないの」

由真の小さいころのことで、家の人からこんな子供だったとかいわれたことはない?

「生まれたばかりは、本当に可愛いコでね。街とか歩いたり、電車の中で全然知らない人からダッコさせてください。とかいわれたくらい可愛いらしかったんですって。それが今はコンナ(ふうになって)だもん。とかいわれてメゲてますね」

じゃ、おとなしくて、お人形さんみたいに可愛いかったんだ。

「あたし、保育園で2年保育だったんですね。大体は、オママゴトとか女のコっぽい遊びとかしていたけど、木登りも得意だった」

顔に似合わず活発だったんだ。

「それが小学校時代は、毎日のように泣いてた。学校がツマンなくて、先生が怖くて嫌いでね。だから、いい思い出ってないの」

というのも、由真は、すごく人見知りが激しかったからなんだって。

「すぐ仲よしになったり、友達ができるっていうタイプじゃないでしょう。で、2年生になってようやく人見知りしなくなって、3年生ですごく気の合う友達ができて、4年生まではクラス替えもあったけど、まあまあだったんだけど、5〜6年生はもう最悪でした」

なにが最悪だったのかというと——。

「5年生で、全員がいろいろな班に分かれて、必ず班長になっていうキメがあって、私はそんなの、すごく嫌いだったけど、キマリだからってある班の班長に立候補したんです。そしたら、仲よしだとばっかり思っていたコからすごい悪口をいわれて、選挙妨害みたいなことをされて、すっかり嫌になっちゃった(学校が)。もう、私の靴とか隠したりね」

仲よしのコから、そんな裏切りの仕打ちをされるなんてショックだったろうね。

「ねえ。とにかくほかのコとかと、ちょっと話してたりするとヤキモチ焼いてイジメるみたいな感じだった」

子供ながらも複雑な人間関係に悩まされていた由真。でも、結構ちゃっかり娘だった。

「私って、面倒くさがりやでね。デザインやグラデーションとか色の使い方とかは好きで、先生からほめられるんだけど、作ったり形にするのが苦手でお母さんにやってもらったの、ポスターとかね。で、一度リスの帽子掛けをお母さんに作ってもらって出したら、図工室に飾られて困ったことがあった」

運動のほうはどうだったの。

「3年生くらいまでは、駆けっコも1位とか2位だったけど4年からいつも5〜6位がいいとこ。急にダメになっちゃった。運動会で行進とかやるのが面倒くさくて嫌だったし、もう、小学校の思い出は涙ですね」

いまの明るい由真からは到底想像もつかないハナシだね。



由真が人見知りしなくなったのは、小学校2〜3年のころからでしたよ。

すき

由真の好きなものをみると、とても女のコっぽいものが多いのに気づく。いろいろ面白いものもコレクションしているね。

●好きな食べもの

梅干し、から揚げ、パパイア、トマトジュース。梅干しは、毎日、必ずといっていいほど食べてるんですよ。夏なんかすごく食べてて、それが私の健康法みたい(笑)。基本的に、しょっぱいのや酸っぱいのが好きなんで、ちょっと直さなくちゃなあ、と思ってるんです。

●好きな花

かすみ草が好き。白くて、ポアーッとしてて、すごくかわいいでしょ。友達のうちにかすみ草ばかりの大きな花束が飾ってあって、あんまりキレイだったんで見とれちゃったこともあるんです。

●好きなファッション

あんまりブランドにはこだわりませんね。ジーンズやミニスカートに、トレーナーやジャケットを組みあわせるような軽快な着こなしが好き。

●好きな季節

ゼーッタイに夏ウ!! 暑いのが好きで、海が好きだからね。やっぱり、海は夏がいちばんキレイだし、遊べるし、灼けるし。小麦色の肌って、大好きなの。だから、デビュー前は5月ごろから、日に灼けて真っ黒な女のコだった(笑)。

●好きな音楽

ジャンルでいうと、ニューミュージック系かな。浜田省吾さん、ユーミン、サザン・オールスターズ。あ、それから、渡辺美里さんも好き。美里さんの歌って、「わっ、青春!」みたいな感じがあるでしょ。特に、『マイ・リボルーション』と、2枚組のLP『ラビン・ユー』は、もう聴きまくってました。

●好きなものアレコレ

好きで集めてるのは、指輪、帽子、スヌーピーのもの、マニキュア。それからね、ジェットコースターとかお化け屋敷とか、胸がスキッとするようなモノも好きなのよね、フフッ。

YES!LIKE





NO!THANK YOU

きらい

由真の嫌いなものは食べものに集中している。それと、音楽に関しては好き嫌いがはっきりしているようだ。

●嫌いな食べもの

きのこファミリーが、いちばん苦手ですね。それから、タケノコとセロリ、ナス。お豆腐やグリンピース、大豆とかの豆類も、わりとダメ。あと、シャコの刺身、ウニやカズノコ……。あれっ、こうやって、あらためて数えてみると私って結構、好き嫌いの激しい人なんですね!?

●嫌いなファッション

レースのいっぱいついてる、いかにもブリブリのファッションは着たくないですね。特定のブランドで嫌いっていうのは、あまりないけど……。

●嫌いな季節

冬!! とにかく寒いのが、苦手だから。『スケバン』のロケで、真冬に外で立ち回りをやってたなんて、今から考えると信じられない。昔から、冬になると一日中コタツで丸くなってる猫みたいな人だったんですよ。友達に会うのも、絶対自分は外に出ないで、いっつも友達を家に呼んでたし……(笑)。

●嫌いな音楽

ジャズやクラシックは、嫌いっていうより、興味がないっていうか……。全然わからないですからね。演歌も、あんまり興味ないなー。海外の音楽とかもね、高1のころ、友達が好きでよく聞かされてたんだけど、結局、自分でノメリこむほどにはならなかったな。やっぱり、日本語の歌詩じゃないとダメみたい、詩を聞いちゃうほうだから。

●嫌いな場所

山って、どうも好きじゃない。よく行ったんだけど、登るのが嫌いだし、いいイメージがないの。

●嫌いなものアレコレ

嫌いなものっていうと、どうしても食べものが頭に浮かんじゃう。ほかには、あまり大っ嫌いなものって少ないみたいね。

好きなものと嫌いなものをみれば、女のコの深層心理が分かっちゃう。これによると、由真ってとっても乙女チックだよ。

LIVE NOW

んて、いわれたりしない？

「そういうのは、全然ないです。だから、とってもつき合いやすいの。気楽に話せるっていうか……」

それはいいね。

この前の進級試験は友達の家に泊まって徹夜しちゃいました

学校の友達の話が出たついでに、由真ちゃんのスクールライフについていろいろ聞いてみようかな。まず、今年は高校最後の1年ということで、何かしたいことは？

「とりあえず、修学旅行。6月の初めに、四国のほうにいくんです。最後の行事だし、これだけは、絶対、出たいな、と思ってるの」

いい思い出を作ってきてね。

由真ちゃんのクラスっていうのは、どんな雰囲気なのかな？

「人数は少ないんですけど、すごくチームワークがいいっていうか、球技大会とか文化祭の出し物で、1位をとったりするようなクラスですね。男のコも女のコも、みんな仲がいいし。23人のクラスだったんですけど、今年進級できない子が5人やめちゃって、それはすごくショックでしたね」

さびしいよね、そういうのって。

由真ちゃんは、仕事で授業に出られないこともあると思うけど、勉強、ついていけなくて困ったりはしない？

「そうですね～。でも、学校をお休みした日は、友達がノートをとっておいてくれたりして。3学期は、毎日がんばって学校に行って最後の試験は、すごく燃えて、友達の家に泊まって、4日徹夜して試験受けて……。なんとか、進級できたんですけどね。結構、負けず嫌いなところがあるから」

合宿して、がんばっちゃうわけだ。

午後、仕事がない時は、友達とどこかに行ったりするの？

「それが、そういう時にかぎって、友達のほうに用があったりして、食事するぐらいで帰ってきちゃうの」

食事って、どういうお店でするのかな？

「喫茶店とか、定食屋さん」

えっ、定食屋さん？

「学校の近くにおいしい定食屋さんがあるんです。から揚げ定食とかが、おいしいの。種類もたくさんあって、五百円なんですよ」

学校の帰りに寄り道しちゃいけないとか、そういう規則は厳しくないの？

「全然。私の学校は、原宿に近くて、歩いても行けるぐらいだし、放課後に友達と洋服を買いに行ったりできるんです」

由真ちゃんは、オフが月に1回あるかないかというほどの忙しさだから、友達とうまく都合を合わせるのは難しいかもしれないね。

ところで、クラス全体が仲がいいということで、中にはカップルも、いるのかな？

「えーと、今はみんな別れちゃいました。でも、みんな仲がいいの。『別れても関係ないよ』みたいな……。やっぱり、いろんなことを経験してきたコが集まってるから、そういう意味では、考え方とか、すごく大人っぽいですね」

由真ちゃんは、クラスメートで憧れてる人は、いないの？

「いない！ そーいうのは、全然いないの。いい人、で終わっちゃう感じ。みんな、女のコも男のコも、ほんとに友達だから」

いいね～。なんか、スクールライフをしっかり楽しんでて。

好きな教科は、何？

「英語ですね」

そういえば、由真ちゃんは英検4級持ってるんだよね。その後は、チャレンジしてないの？

「してません。機会があったら、ぜひ取りたいし、英会話もやりたいんですけど……」

この本の撮影でロスに行った時は、英語を使う機会はあった？

「結構ありました。単語をいって……。仲いい友達にお土産を買った時に、五つくらい買ったんですけど、それを1個ずつ包んでもらいたかったのね。それで、単語をならべて『パッケージ、ワン、ワン』とか、適当にいろいろいったんですけど、全然通じなくて。最後にやっと、わかってもらえたみたいですけど……」

でも、そういう経験って、面白いよね。

最後に、もし1週間オフがあったら、海外ではどこに行ってみたい？

「ニューカレドニア」

あー、あそこが憧れの地なの？

「う～ん。私、海が好きだから、どんな海なのか見たいんです。みんな、いいところだっていうでしょう。それに、あそこはフランス領だから、旅行してる間に少しはフランス語も覚えられるかもしれないし、フランス料理も食べられるし……」

食べ物のことまで考えてるなんて、由真ってホントにおちゃめだね。



英語は得意の由真だけど、ロスでは本場の早口な英語にとまどいぎみ。「ロケの最後のほうで、相手の言葉がやっと聞き取れるようになったの。もう1か月ぐらい滞在すれば、英会話ができるようになるんじゃないかな～」



18歳っていうことで、それに合うようにネ」

やはり、18っていうことを意識してるんだね。男性観みたいなものも変わってきた？

「昔は、美少年みたいなタイプに憧れてたけど、やっぱり男のヒトは、ハートだと思う。顔は、ある程度でいいと思うようになりましたね。カッコイイことに越したことはないですけど、そんなにカッコよくなくてもいいナとかね……」

それは、何かきっかけがあったの？ 顔はいいけど、性格が悪い人に出逢ったとか？

「ウフッ。それは、ないです。そういう人にまだ、めぐり逢ったことがないしね。でも、顔より、心がすごく広くていろいろ考えてくれる人がいいナと……」

そういうふうに、デビューして1年足らずの間に由真ちゃんがいろいろな面で変わってきた背景というか、周囲には助言してくれるような人がいたのかな？

「身近な人では、友達や家族、それから事務所やファンクラブのスタッフのみなさんですね。いろんなことを話せるし、細かいことも一つ一ついってくれるんです。叱(しか)られてる時は『そうかな～』なんて思ったりしちゃうんですけど、後になって考えると、そのとおりだな、と思うんですよね。演技の面では『スケバン』の監督さんの言葉が、いちばんきつかったし、心に残ってます。とっても厳しくて、結構、泣いたりもしたんですけど、打ち上げの時に『よくここまでがんばれたね』っていってくれて。監督さんは子供がいないから、何かあったら家に電話しなさいって……。それは、とっても、うれしかったです」

そんな厳しい人が、そこまでいってくれるっていうのは、うれしいよね。それで、実際電話して相談したことはあるの？

「まだ、ないですね。っていうか、私って悩みごととか、自分からはあんまりいわないほうなんです」

音楽面では、やっぱりディレクターさんの影響が大きいのかな？

「すごく大きいですね。私が歌い方がわからなかったり、悩んでたりすると、ディレクターさんがレコーディング用のヘッドホンをして、歌ってみせてくれるんですよ。そういうのには、感動しちゃいますね」

行き詰まったところで、力になってくれる人っていうのは、ありがたいね。

「そうですね。いつも『歌は、うまさじゃない、心だ』っていってくれて。私、ホントに歌が上手じゃないので、そういうふうにいってくれると、すごく歌いやすいし……」

スタッフとか、由真ちゃんの周囲は、いい人が多いみたいだね

夏のコンサートツアーで全国のファンに逢えるのが楽しみ！

今、仕事で力を入れてることは何かある？

「特別に、これ、というのはないんですけどやっぱり歌のほうっていうか、イベントとか、キャンペーンとかですね」

コンサートの予定は？

「7月、8月に、だいたい10か所ぐらい、全国をまわる予定なんです」

本格的なコンサート・ツアーをするのは、初めてだよね。『スケバン』のファイナル・コンサートで各地をまわってみて場所によってファンのタイプが違うな、なんて感じたことはあった？

「そうですね。寒い地方のファンのほうが、おとなしいみたい。ほんとに静かで、まじまじ見て、聴いてくれてるんだナってわかるんです。なかには、大声で声援してくれるファンもいましたけど、全体的には、じっくりと聴きこんでくれる人が多いみたい。私には、どちらのタイプのファンも大切な人たちですね」

ところで、由真ちゃんの一日24時間の過ごし方を教えてくれるかな？

「まず、朝7時に起きて、学校にいきます。由真は、定時制の高校に通っているので、今4年生なんですよね。授業が12時に終わるとそのまま、お仕事に直行します。お仕事は、その日によって違いますけど、平均して1日に四つぐらい。テレビやラジオ、イベント、雑誌の取材などがあります。今まで、1日のお仕事の数がいちばん多かった記録は、7個！　家に帰るとすぐに寝ちゃう日もありますけど、たいていは友達に電話したり、ビデオを借りてきて見たりして……。電話してると、1～2時間はアッという間で、寝るのはだいたい2時か3時になっちゃいますね」

睡眠時間はヘタすると4時間ぐらいだね。寝不足だなっていう感じはしない？

「しないんです。だいたい4時間か5時間がベストなの」

仕事の合間なんかは、何してるの？

「移動中は、だいたい、マネージャーさんと打ち合わせしているか、あとは、よく歌を歌ってますね。適当にテープをかけて、発声練習みたいな感じで。1日に1回、必ず声を出さないと、なんか出なくなっちゃうみたいなの。楽屋での空き時間には、雑誌を読んでることが多いです。『オリーブ』『アンアン』とか『JJ』。お店の紹介とか、載ってるでしょう。そういうのが、楽しみなの。それから、普段着てる服は『オリーブ』っぽいのが多いんだけど、雑誌のページに自分が持ってるのと同じような服が出てると、ああ、こういうふうに着ればカワイイんだな、とか思ったりしながら見てますね」

いいお店が紹介してあると、すぐに行ってみたりしちゃう？

「それは、ないですね。一度、雑誌で『かぼちゃ亭』っていうのを見たことがあって、どこにあるんだろうと思ってたら、ちょうど、大西結花ちゃんがそのお店の話をしてたんです。それで、地図をかいてもらって行ってみたの。渋谷にあるんですけど、全部かぼちゃを使ったメニューで、かぼちゃのコロッケとかかぼちゃの雑炊とか……。私がいちばん好きなのはかぼちゃのグラタン。ちょっと高いけど、なかなかおいしくて、最近そのお店が気に入ってます」

楽屋では、そういう情報交換もしてるんだね。電話をするのも、芸能界の友達？

「いいえ。学校の友達ですね。仕事で学校に行けなかった日は『今日、何があったの』っていう感じで、学校での話を聞いたり、あとは、お互いの状況みたいなことを、おしゃべりしてるの」

由真ちゃんがこういうお仕事してると、友達から「誰々さんのサインもらってきて」な



最近、男の人はハートだなと思うようになったんです

女のコには急に大人になる時期がある。いつまでも「美少年がいい！」なんて騒いでると思ったら大間違い。というわけで、18になってますますＳＥＸＹになった由真にインタビューしてみた。



「色っぽい」なんていわれたのは初めてだから照れちゃうナ

由真は、今、18歳。もうすぐデビューから2年目を迎え、一つのターニング・ポイントにさしかかっている。そこで、現在の由真のホットな声を聞いてみた。

最近、自分で変わったな、と思うことって何かある？

「自分の意見を、すごくいうようになったことかナ。デビューしてしばらくは、大人の人たちが全然わからなくて、話もできなかったんですよね。最近は、やっぱり慣れたんだと思うけど、結構、話せるようになったし……。逆に、昔ならグズグズいってたようなことでも、がまんするっていうか、いろんなことを考えて、最終的に自分の中でおさえたりすることが多くなりましたね」

それじゃ、成長したなって思うでしょ。

「成長したとは……、まだ思わないんですけどね。でも、やっぱり、自分でもがんばってるのかな～と……」

見た目にも、顔とかスタイルとか、ずいぶん変わったような気がするけど。

「やせたんですよね。ホントは、やせただけなんです。でも、18歳になってから、いきなり、みんなに『すごく色っぽくなったね』っていわれるようになって……。『スケバン』やってるころから、唯や結花に比べるとずっと年上に見えるとか、大人っぽいとはいわれてましたけど、色っぽいとはいわれたことがなかったから、照れますね～」

でも、色っぽいっていうのは、スゴイほめ言葉だと思うよ。いわれて、うれしいとは思わないの？

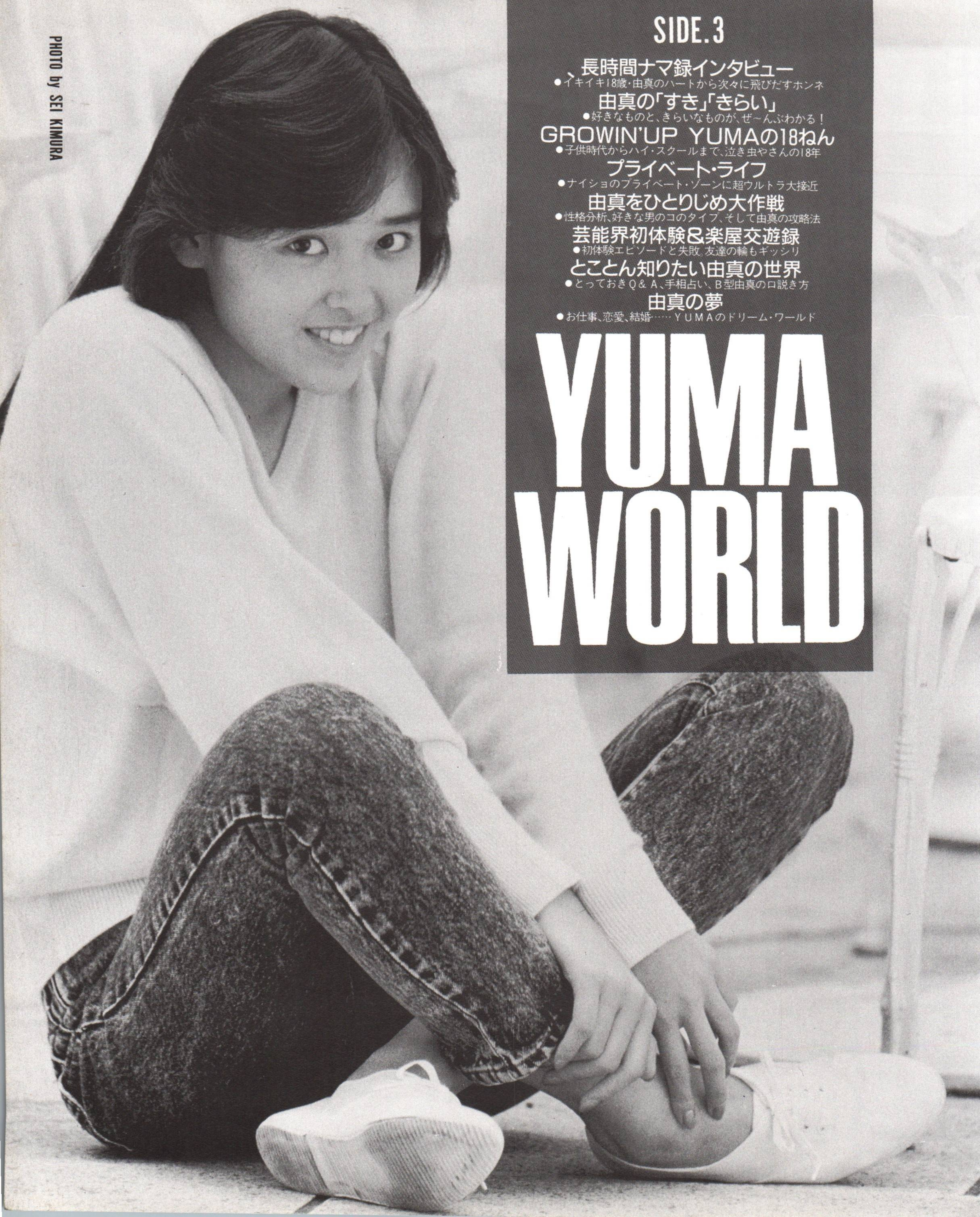
「うれしいですよね、やっぱり。女のコ、みたいに見られていたのが、色っぽいっていわれると、女性として見てもらえるようになったのかなって……」

そうすると、ファッションも、デビューのころとは変わってきているのかな？

「変わりましたネ。デビューしたころは、赤とか青とか黄色とか、よく着てたんです。赤は今でも好きだけど、ほかは、もう全然着なくなっちゃったし……。黒、白、紺なんかが好きになりましたね。それに、最初はミニスカートのほうが多かったけど、長いスカートばっかり、はくようになっちゃったし」

そういえば、六本木のガーデンヒルズでやったバースデーパーティーの時着てた服も、すごくシックだったね。

「あれは、お誕生日の前日に買ってきたの。



SIDE.3

長時間ナマ録インタビュー
●イキイキ18歳・由真のハートから次々に飛びだすホンネ

由真の「すき」「きらい」
●好きなものと、きらいなものが、ぜ〜んぶわかる！

GROWIN'UP YUMAの18ねん
●子供時代からハイ・スクールまで、泣き虫やさんの18年

プライベート・ライフ
●ナイショのプライベート・ゾーンに超ウルトラ大接近

由真をひとりじめ大作戦
●性格分析、好きな男のコのタイプ、そして由真の攻略法

芸能界初体験&楽屋交遊録
●初体験エピソードと失敗。友達の輪もギッシリ

とことん知りたい由真の世界
●とっておきQ&A、手相占い、B型由真の口説き方

由真の夢
●お仕事、恋愛、結婚……YUMAのドリーム・ワールド

YUMA WORLD

PHOTO by SEI KIMURA

ひとりで夕立の音を聞いてると、寂しくなっちゃう。ボーイフレンド、作ろうかな……



仲よし5人組で好きな男のコの話をすると、由真にはいないから、いつも聞き役なの

夏休みになってすぐ、ひっそりとした洋館で撮影。夕立の音を聞きながら、つぶやいたひとりごと……『スケバン刑事』の撮影が始まってから、もうすぐ1年。長いような短いような、不思議な感じ……。最近は、なんだかケガばっかりしてる。これって、気をぬいてるからじゃない。反対に、気合いが入りすぎるから……。寒くて寒くてホカロンが手ばなせない冬のロケ、暑くて暑くて死にそうで、虫さされにも悩まされる夏……でも、それも、あと少しで終わっちゃう……。

夏休みって楽しいけど、友達に会えないのが寂しい。仲よし5人グループで、おもいっきりオシャベリしたいな。1学期は早退や欠席が多かったから、2学期は必死になって学校へ行かなくっちゃ。早く学校が始まらないかな……。



ひとりごと

Graffiti 2



初めてのカラーグラビアの撮影で
放課後にＯＲＥのスタジオへやってきた由真……
シャッターが降りるたびに由真の表情が変わっていく
おちゃめな由真、恥ずかしがりやの由真
少し大人びた由真、そして、とびきりの笑顔……
人なつっこく、それでいて誰にも媚びることのない
自然体の由真が、キラキラと輝く





おっきな〝好き〟
届けたいナ…



映画『トップガン』を見て、２回も泣いてしまったという
おセンチで感激やさんの由真
「電車の中で『中村由真だ！』と声をかけられると
なんか恥ずかしい」と照れながら話す由真
のびのびと育ったんだろうなアと思わせる明るい性格……
「由真っていいナ」と
ＯＲＥたち、夢中になりそうな予感がしたよね



SIDE.2

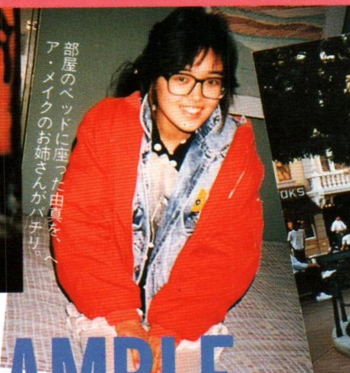
Graffiti 1

LOS ANGELES-200時間

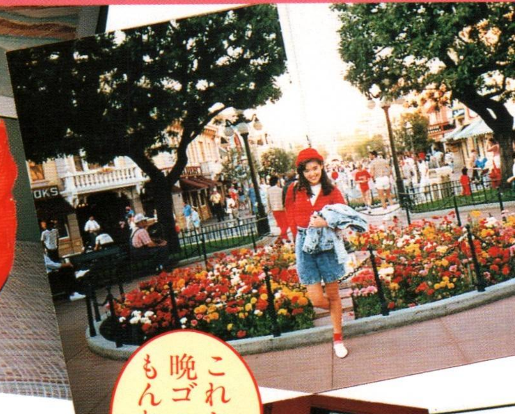
この一瞬が



ダウン・タウンのはずれに行ったら、こんなハデな落書きが。でも、夜は危なくて、とても行けない。



部屋のベッドに座った由真を、ヘア・メイクのお姉さんがパチリ。





「これからディズニーランドに行ってきま〜す」。チョコンとかぶった赤い帽子がカワイイね。

SCRAMBLE

チャイナ・タウンへ「アイ・シャル・リターン」

ここでご紹介するのは、ぜ〜んぶオフ・タイムの由真。日が落ちると撮影終了だから、夜は食事、ショッピング、部屋でテレビと、フリータイム。でも、由真がいちばん嬉しかったのは、やっぱり撮影3日目が終わってから行ったディズニーランド。「かけ足だったけど、乗り物も四つ乗ったし、大満足。二重マル！」と、すっかりゴキゲンだった。もうひとつの二重マルは新鮮なフルーツ。ハワイに行ってから大好きになったパパイアが特にこっちではおいしかったらしくて、朝、昼、晩と、一日3度も食べた日があったんだよ。そのほかに由真の食べたものを紹介すると……ファミリーレストランみたいなとこでステーキ、リトル・トーキョー(日本人街)でおスシ、チャイナ・タウンで中華料理、テイクアウト・ランチのチキンからあげ&サラダ、スーパーで買ったカップラーメンと雑炊、などなど。特に中華のカニ料理が気にいったみたいで、後半のビデオ撮影のときにも、また行ったんだって。――とゆーわけで、盛りだくさんのロサンゼルス・ロケ。最後に由真の感想を聞いたら「三重マルっ!!」。



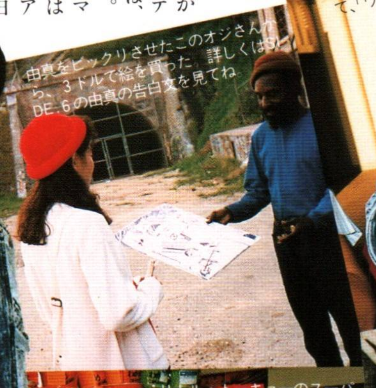
チャイナ・タウンは赤や黄色の原色があふれてる。由真のこのスタイルは街にピッタリ。



▲チャイナ・タウンの中華料理店。ギッシリ満員で、まあニギヤカなこと！



▼朝から晩までホントにお元気娘！



由真をビックリさせたこのオジさんから、3ドルで絵を買った。詳しくはSIDE.6の由真の告白文を見てね。



ミッキーマウスに抱き寄せられて、「ワーイ、ピース！」。



▶ホテルのロビーで休憩中。カメラを向けたら、すかさず攻撃ピース！

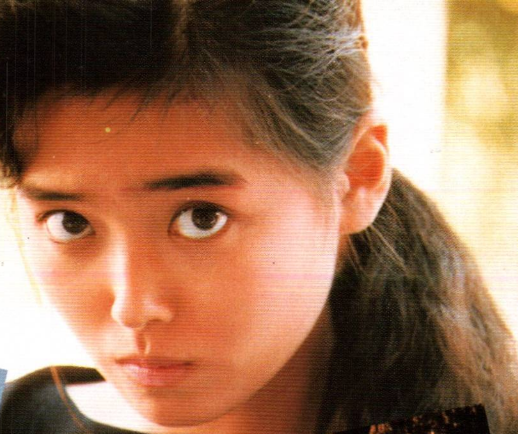


リトル・トーキョーのスーパーでショッピング中だよ。

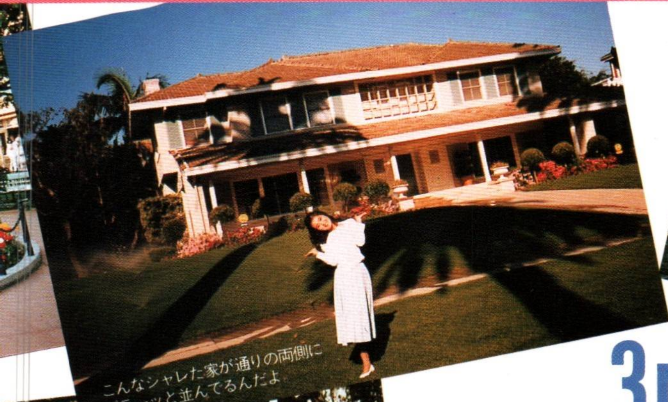


「このシルバーのドレス、ステキっ！」

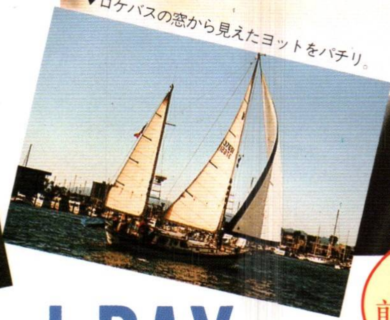
まるごとSHOOTING!
見たかった！



由真にこんな表情されると、なんだか胸がドキドキしてきちゃうよな……。



こんなシャレた家が通りの両側にズラーッと並んでるんだよ



▼ロケバスの窓から見えたヨットをパチリ。



ただ今、午前6時。気持ちいいんだよ

こうやって見ると、由真ってホントにスタイルがいいんだね。

3rd.DAY

早起きニガ手の由真が、4時過ぎには「グッド・モーニング！」

2日目の撮影が終わってから、由真とスタッフが相談。「ディズニーランドに行きたいんだよね」と聞くスタッフに「でも、いいんです。まだ撮影もいっぱい残ってるし、お仕事優先です」とけなげに答える由真。そんな由真を見て、「なんとかディズニーランドに行けるように、スケジュールを調整してがんばろう」と、スタッフ全員の意見が一致。「ちょっと朝が早くなるけど、大丈夫？」と聞かれて、由真はキラキラ・スマイルで「ハイ！」。

とゆーわけで、3日目は、なんと朝6時から撮影。それでも由真は、1時間半ぐらい前に起きて、パパイアとトマトジュースの朝食をとったんだって。「東京だと朝はニガ手なのに、こっちだとスッキリ目が覚めちゃうの」と自分でも信じられない様子。まず最初は、まだ誰も通らない市内の住宅街で撮影。住宅街といっても、通りの広さは東京の幹線道路ぐらいあるし、両側にはグリーンの木がいっぱい。そして、朝のさわやかな光と、由真のスウィート・スマイル！ まさに「絵になる！」って感じで、撮影も順調。このあと、ダウン・タウンの倉庫街へ移動して、いよいよクライマックス。黒いセクシーなドレスの由真が、古びた街並みによく似合う。治安が悪いところなんだけど、撮影の熱気に押されたのか、危なそうな人たちも全然寄ってこない。そして、午後3時に「お疲れさま～！」と撮影終了。大急ぎでラーメンを食べて、由真はディズニーランドへと向かったよ。



道のまん中でノッてる由真。「マンデー・モーニング・フィーバー！」のつもりかな？



撮影の合間には、こんなおちゃめな表情も飛びだすんだよ。

これでどう？ また「色っぽくなったね」っていわれるかな？



◀遊んでるんじゃなくて、いたずらポーズの由真を撮影中。



▼倉庫街に取り残された貨物列車の後ろに乗っかった由真。熱気が伝わる！



これはパルプ倉庫のウラロ。古びたレンガにシックな由真、とってもいいムードだね。

LOS ANGELES-200時間 あつ、瞬間が



リビングルームで、ドレスアップした由真を撮影。このドレス、由真もとっても好きなんだって。



お菓子を持ってる由真は、まるで子供みたい。



借りた家の前で記念スナップ。頭に巻いてるカーラーなんだかカワイイね。

2nd. DAY

庭つき、プールつきの大豪邸は、さ〜て、おいくら？

2日目。この日は、朝ちょっとゆっくりして、8時すぎに出発。9時前に高級住宅街にある庭つきプールつきの家へ到着。午後3時まで、ここを借り切って撮影したんだよ。家主さんから「ここは1年前に3千万円ちょっとで買った」と聞いた由真は「エエーッ、東京だったら倍はしますよ」とビックリ。カメラマンに「2億でも買えないよ」といわれて、「東京の家って、そんなに高いの〜！」と、またまたビックリ。土地と家の話で盛りあがったところで、撮影スタート。2日目とあってますます調子が出てきた由真は、驚くほどセクシーな表情を見せる。そのときの写真が、SIDE・1のSEXYインナー編なんだよ。この家がとても気に入ったらしい由真だけど、3時過ぎには「バイバイ」して、次のロケ場所のマリナ・デル・レイへ。ちょうど日曜日だから、この有名なヨットハーバーは観光客と地元の人でいっぱい。人波をかきわけるようにして「エクス・キューズ・ミー」を連発しながら撮影。「アッ、由真がいる。なんで〜？」なんていいながら側で見物の日本人観光客もいたりして、現場はドタバタ。嵐のように撮り終えて、サンタモニカのビーチへ移動。夕暮れのビーチは太平洋からの風が強くて、昼間の熱気がウソみたいに寒い。でも、由真は最後まであったかいスマイルでがんばったよ。



マリナ・デル・レイの桟橋で



▲光が射しこむ階段がいい雰囲気



▲ボート乗り場で光の強さを測ってるところ。



▲プールサイドでヘア・メイクしてもらってる。



これもマリナ・デル・レイ。左に写ってるのは何の関係もないオバさん。



▶さわやかな風が由真のホッペをなでていく……。



夕暮れのサンタモニカのビーチは急に冷えこんできて……。でも由真はこのスマイルでがんばった。

まるごとSHOOTING ドラマチック！



バサデナ駅の線路わきで、「レッツ・ゴー・ロケーション！」とノリノリの由真。



▲列車は２時間に１本だから、気にせず優雅に撮影。



撮影してたら、子供たちが寄ってきて、カワイイ由真とボール遊び。



▲このハッピー・スマイルをひとりじめしてみたいね



1st. DAY

「こんな晴天はめずらしい」と、ガイドさんも驚きの晴れ少女・由真

撮影1日目。由真は朝5時過ぎに起床。ロサンゼルスに着いたのはこの前日で、「ショッピングしてたらおなかが痛くなって、早めに寝ちゃったの」と由真。グッスリ眠ったのがよかったみたいで、顔もスッキリして気分よさそう。大好きなパパイアとトマトジュースの朝食をとって、7時にホテルを出発！ ガイドさんが「ロサンゼルスでもめずらしいくらいのいい天気ですよ」というだけあって、雲ひとつない青空の下で、街も海もキラキラと輝いてる。カーラジオから流れるアメリカン・ポップスに合わせてハミングする由真を乗っけたロケバスは、ビュンビュンと風を切って、フリーウエイを突っぱしる。約30分で、パサデナってとこにある大学のキャンパスに到着。グリーンの芝生がドーンと広がって、アチコチにオレンジの実がなってるキャンパスを見て、由真もカメラマンも思わず「グー！」と満足顔。午前中はこのキャンパスで、寄ってきたネコと遊んだり、ベンチでフレッシュジュースを飲んだりの休憩をはさみながらの撮影。午後は有名なハリウッドやビバリーヒルズをドライブしながら、メルローズへ。

スタッフは「ワッ、ここテレビで見たことある」なんて外を見て騒いでるのに、車に乗ると眠っちゃう習性のある由真は、ひとりでスヤスヤ。でも、ファッショナブルなメルローズへ着くと、パチリと目を覚ますのは、さすがッ!!



メルローズは東京の原宿みたいなヤング・ファッション・タウン。



▲光と影が交わって、ここも絶好のロケーションだね。



あれ、目にゴミが入っちゃったみたい。





「由真も、こんなキャンパスだったら、一生懸命に勉強するんだけどな(笑)」だって。



▶いろんなジュースを飲んで味を試してるところだよ。



メルローズの本屋さんの前で撮影中に、衣装を直してもらってる。



大学のキャンパスで「気持ちいいな〜」と日光浴。



説明不要のゴキゲン・ポーズ！

ためらわないで……ドアを開けて、こっちにきて





窓ごしに見えるわ……危うい午後への一歩手前……

洗いたての髪、あなたはほめてくれるかしら……





……私の王子サマ……はやく私をむかえにきてね



そっと受けとめる
窓からの淡い光
さがしているのよ
ゆうべ、なくした
ガラスのくつ……











ひとりぼっちで過ごす午後、
もしもいま、ベッドサイドで
あなたからの電話が鳴っても
すぐには受話器、とらないわ
こんなに私をさびしくさせた
あなたにちょっとイジワル





ついてこいってて、もっと強引に誘ってほしいの



そんなふうに、言葉をさがしたりしないで……まっすぐなあなたの心をみせてください……今なら私、自分に素直になれそうな気がするから……





ないしょで、こっそりお部屋をぬけだしてきたの
早くあなたに会いたくて……ハダシのまま……







静かすぎる朝の訪れをひとり、抱きしめて……



あなたからの電話待ちながら
なかなか眠れない長い夜……
まぶしいくらい白いシーツに
頭からすっぽりとくるまって
みるのはやっぱりあなたの夢
ちょっとくやしいけれど……





SIDE.1

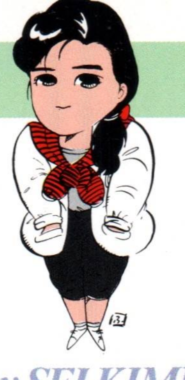
こんなに大胆・・・

最新撮り下ろしSEXYインナー編

このごろ、ずいぶんオトナっぽくなったネッ〟なんて、よくいわれます。私は、どこも変わっていないつもりなんですけど……ちょっぴり泣きむし、ちょっぴり甘えんぼう……それから、ちょっと強がりの私……はじめて、あなたに出会ったころ、肩までしかなかった髪は、今ではこんなに長くなりました……まだ、私も気づいていないちょっとオトナの18歳の私……いちばん先に、あなたに感じてほしくて……



PHOTOGRAPHIC·MAGAZINE

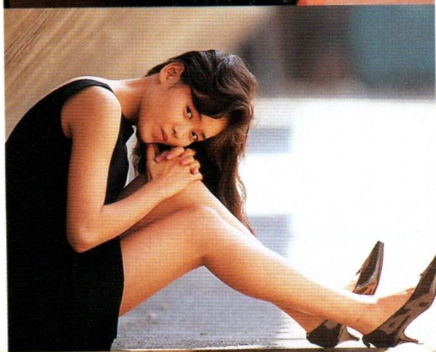


Yuma Nakamura

Photo by SEI KIMURA

illustration by FUJIO KAKEGAWA





カバーストーリー

『スケバン刑事III』でＯＲＥたちの前に衝撃的に登場した少女は、18歳になってますますシャープにグレードアップ。そんな由真を、カリフォルニアで大ロケーション。たまらない愛くるしさと、はじめて見せるセクシーポーズ！　デビュー以来由真を追いつづけたＯＲＥだからできる鮮烈フォト、グラフィティ、ロングインタビューほか、ここでしか見られない由真のすべてをお楽しみください。











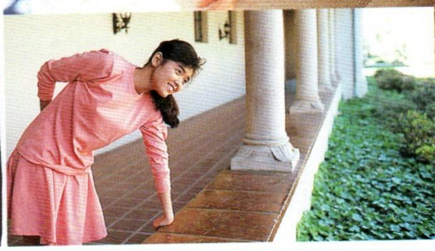












Skinship Magazine for Boys
DELUXEマガジン ORE

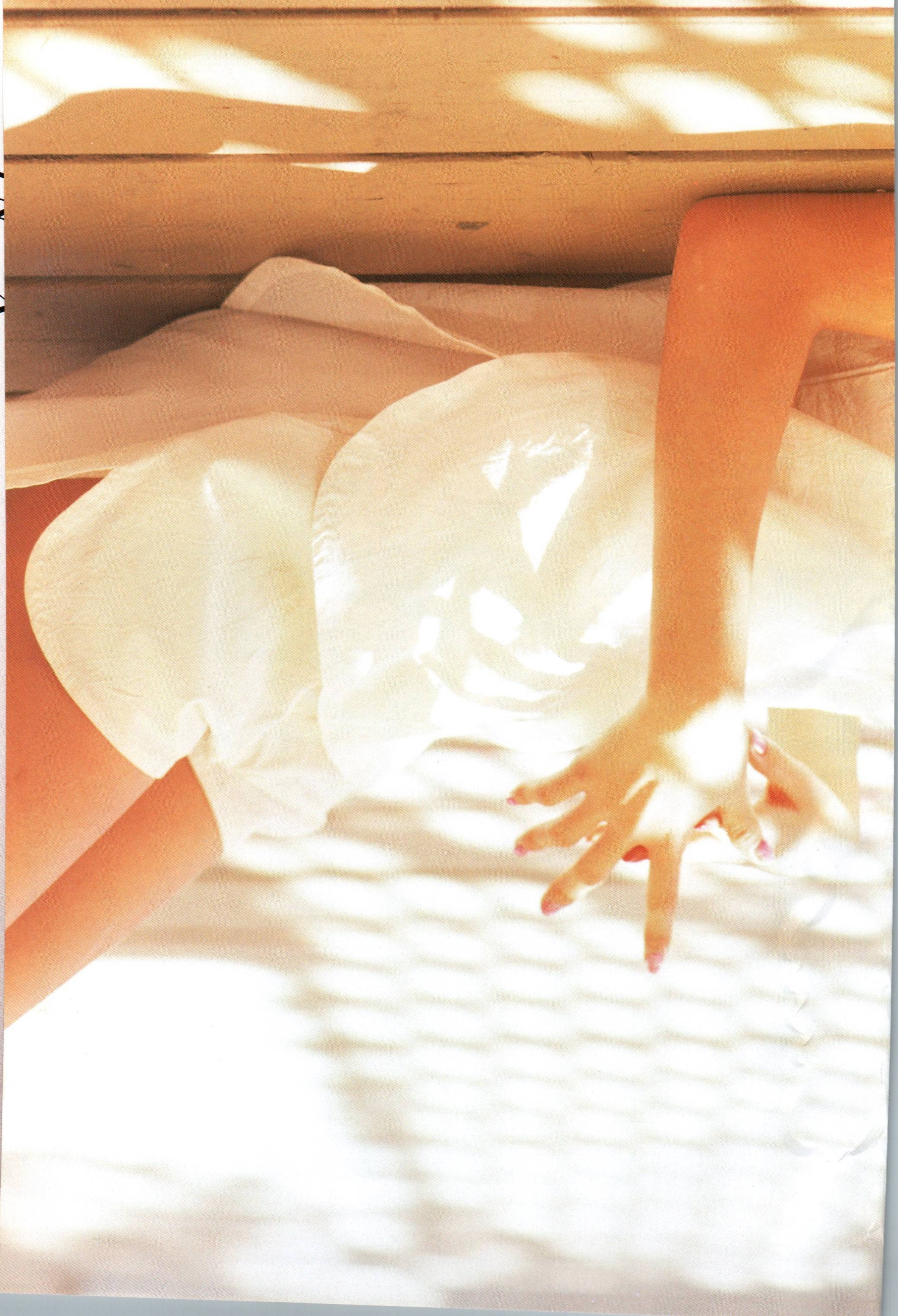
中村由真　PHOTOGRAPHIC·MAGAZINE　編集人——榎本孝之助　発行人——内田勝　デザイン——PENCIL STUDIO　発行所——株式会社講談社　〒112東京都文京区音羽2-12-21
電話　東京03-945-1111(大代表)　印刷所——大日本印刷株式会社　製本所——株式会社国宝社　PRINTED IN JAPAN ISBN4-06-101631-8（0）（オ）定価1,300円　©講談社・1988
昭和63年６月24日第１刷発行　昭和63年７月20日第２刷発行　禁・無断転載　落丁本、乱丁本は、小社雑誌業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。


PHOTOGRAPHIC·MAGAZINE
Yuma Nakamura
Photo by SEI KIMURA


PHOTO
Yum
Photo


PHOTOGRAPHIC·MAGAZINE
Yuma Nakamura
Photo by SEI KIMURA

PHOTOGRAPHIC·MAGAZINE



PHOTOGRAPHIC·MAGAZINE

Photo by SEI KIMURA

Yuma Nakamura